

第26回 平取ダム地域文化保全対策検討会 次第

日時：令和8年3月24日（火） 13時30分

場所：平取町中央公民館（大ホール）

1. 開 会

2. 挨拶

3. 報告事項

地域文化調査の成果概要について

【資料－2】

4. 審 議

4－1 地域文化に係る調査・検討について

【資料－3】

4－2 アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書

平取ダム地域文化保全対策検討会とりまとめ

【資料－4】

5. 委員から一言

6. 閉会に当たり

7. 閉 会

平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領（案）

（設置）

第1条 平取ダム建設予定地周辺におけるアイヌの文化的所産に与える影響及びその保全対策について、「アイヌ文化環境保全対策調査委員会」の取りまとめを受けた平取町の報告を尊重し、保全対策の具体化に向けた検討を行うため、平取ダム地域文化保全対策検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 検討会は、前条の保全対策の具体化に向けた検討を行う。

（検討会の構成）

第3条 検討会の構成委員は、別表1のとおりとする。

（座長）

第4条 検討会に座長を置く。

2 座長は、委員が互選する。

3 座長は、検討会の会務を処理する。

4 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（委員の委嘱期間）

第5条 委員の委嘱期間は、令和8年3月31日までとする。ただし、再任を妨げない。

（検討会の招集）

第6条 検討会は、座長が招集する。

2 検討会は、委員の2分の1以上が出席した場合に成立する。

3 座長が、検討会の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者から意見を聴くことができる。

（事務局）

第7条 検討会の事務局は、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部に置く。

2 事務局は、検討会の運営に必要な事務を処理する。

（公開）

第8条 検討会は、原則として公開により行う。ただし、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」第5条各号に掲げる不開示情報を取り扱う場合その他必要な場合には、非公開とすることがある。

2 検討会の資料等については、原則として、室蘭開発建設部ホームページにおいて公開するものとする。

（その他）

第9条 この要領に定めるもののほか、検討会の運営に必要な事項は、検討会において定める。

2 この要領の変更については、検討会において行う。

附 則

この要領は、令和8年3月24日から施行する。

別表－１

平取ダム地域文化保全対策検討会委員名簿

氏 名	所 属
う な やま よし のり 宇 南 山 嘉 宣	平取アイヌ協会副会長
えん どう けい いち 遠 藤 桂 一	平取町長
おち あい けん いち 落 合 研 一	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
かな や みつる 金 谷 満	平取町議会総務文教常任委員会委員長
かや の きみ ひろ 萱 野 公 裕	平取アイヌ協会副会長
かわ な の えい こ 川 奈 野 栄 子	平取アイヌ協会副会長
かわ な の とし や 川 奈 野 利 也	平取アイヌ協会副会長
き むら ひで ひこ 木 村 英 彦	平取アイヌ協会長
たか やま おさむ 高 山 修	平取町議会議長
まつ だ たく み 松 田 拓 美	平取町教育委員会教育長
やま さき こう じ 山 崎 幸 治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長

(五十音順／敬称略)

第26回 平取ダム地域文化保全対策検討会

「地域文化に係る調査・検討」について

令和8年3月24日(火)

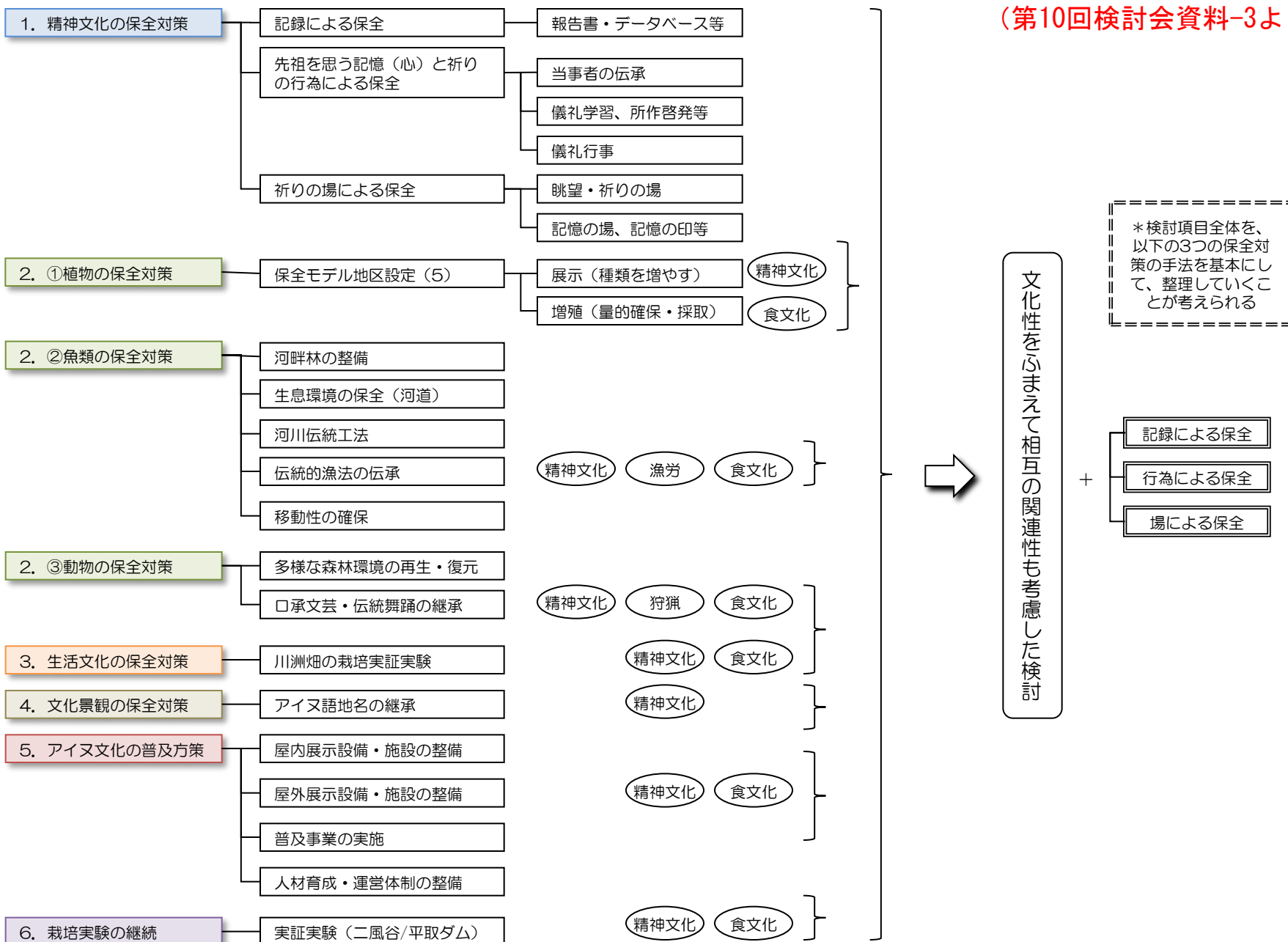


イランカラプテ

「こんにちは」からはじめよう。

保全対策の実施内容

(第10回検討会資料-3より引用)



地域文化に係る調査・検討の流れ

第25回検討会資料抜粋

アイヌ文化環境保全対策調査委員会(平取町設置)

○平成15年5月～平成18年3月

地域文化に係る保全対策の基本的考え方の検討
(総括報告書 2006年3月)

平取ダム地域文化保全対策検討会(室蘭開発建設部設置)

1. 地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

○平成18年8月～

検討項目	調査・検討・実施内容
精神文化の保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・保全対象地や所作に関する情報収集、意向調査の実施 ・現地でのカムイノミの実施 ・眺望・祈りの場、フットパスの整備内容の検討 等
生物の生存環境の保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・有用植物保全モデル地区の設定 ・有用植物移植後のモニタリング ・伝統漁法の試行調査 等
生活文化の保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・川州畑実証試験地の設定、及び実証試験の実施
文化景観の保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ語地名データベースの構築 ・アイヌ語地名パンフレットの試作 ・橋名板の設置 等
アイヌ文化の普及方策	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内外展示の整備内容の検討 等
栽培実験の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアル(案)の作成 ・二風谷地区育苗畑、有用植物保全モデル地区での栽培実験の実施

第1回
～
第14回

中間とりまとめ

2. 地域文化に係る保全対策の具体化と実施

第15回
平成26年3月18日(火)

第16回
平成26年9月25日(木)

令和4年7月 平取ダム供用開始

3. 地域文化に係る保全対策のモニタリング調査の実施

第23回
令和5年3月29日(水)

3年間程度想定

最終とりまとめ

第26回
令和8年3月24日(火)

平取町沙流川流域地域文化保全協議会(平取町設置)に移行(予定)

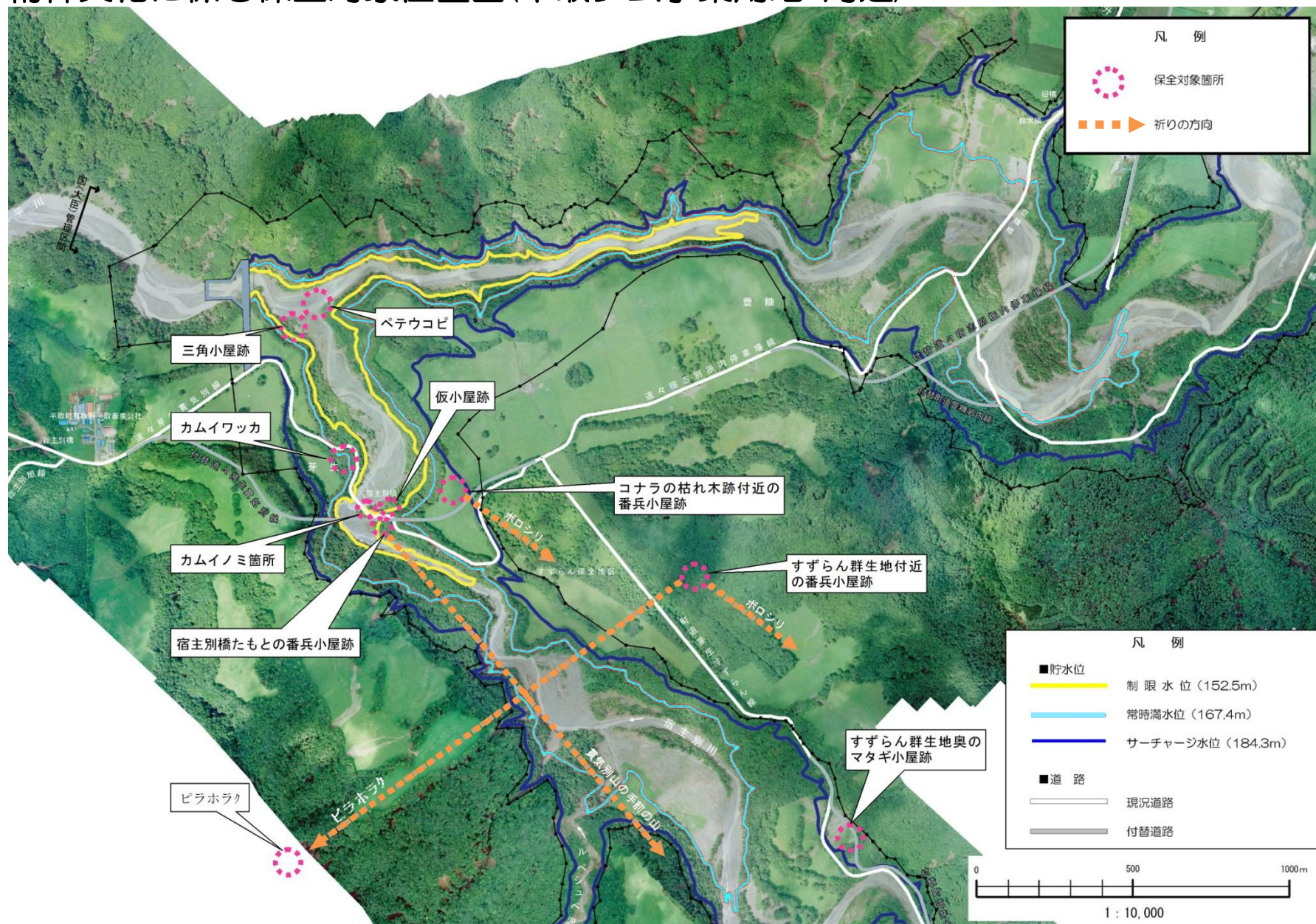
検討項目

- 1 精神文化の保全対策
- 2 生物（植物・魚類・動物）の生存環境の保全対策
- 3 生活文化の保全対策
- 4 文化景観の保全対策
- 5 アイヌ文化の普及方策
- 6 栽培実験の継続

令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

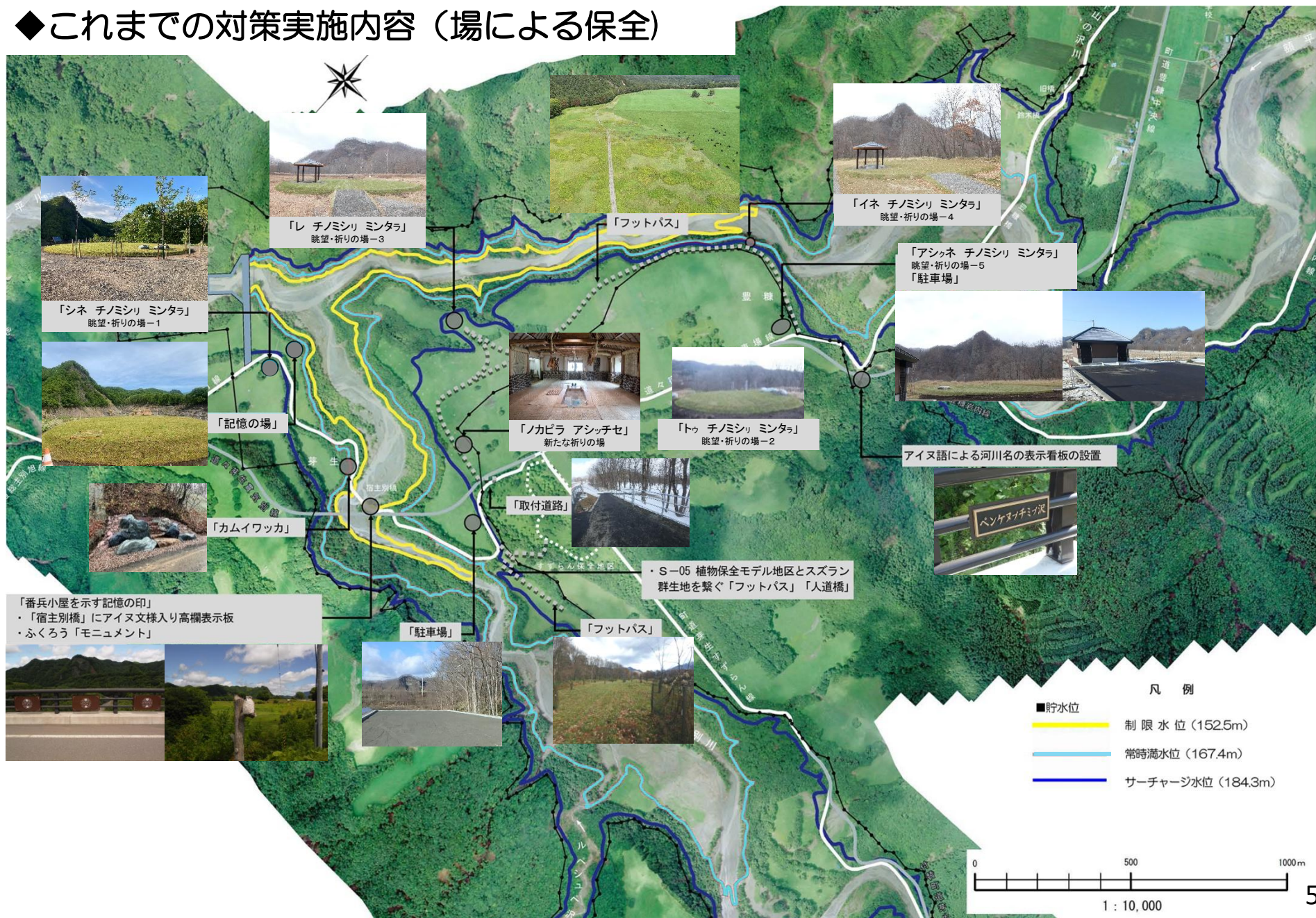
◆精神文化に係る保全対象位置図(平取ダム事業用地・周辺)

(第15回検討会資料-2より引用)



令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

◆これまでの対策実施内容（場による保全）



令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

・ダム事業の実施報告（景観の改善について）

- ・ダム景観と管理上懸念であった貯水池内（宿主別橋下流）の枯死木について令和5年、6年、7年に伐採を実施。重機で枯死木を伐採または根元から切断した。処理した倒木は貯水後（7月以降）に流下したものをダムサイト・網場で回収・搬出した。
- ・その結果、景観の改善が図られた。



伐採前（令和5年4月4日）



伐採後（令和7年6月24日）

伐採作業(令和6年)



湛水時（令和7年10月17日）

令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

1. 精神文化の保全対策

・ 祈りの場による保全

《 祈りの場の活用について 》

- ・ 平取町対策室で祈りの場（ノカピラ アシッチセ）にて又ササンを活用した。
- ・ カムイノミ等の儀礼、伝承活動やアイヌ文化体験学習等に活用する。

又ササンの活用



ポロシリ山開きの儀式（6/28）



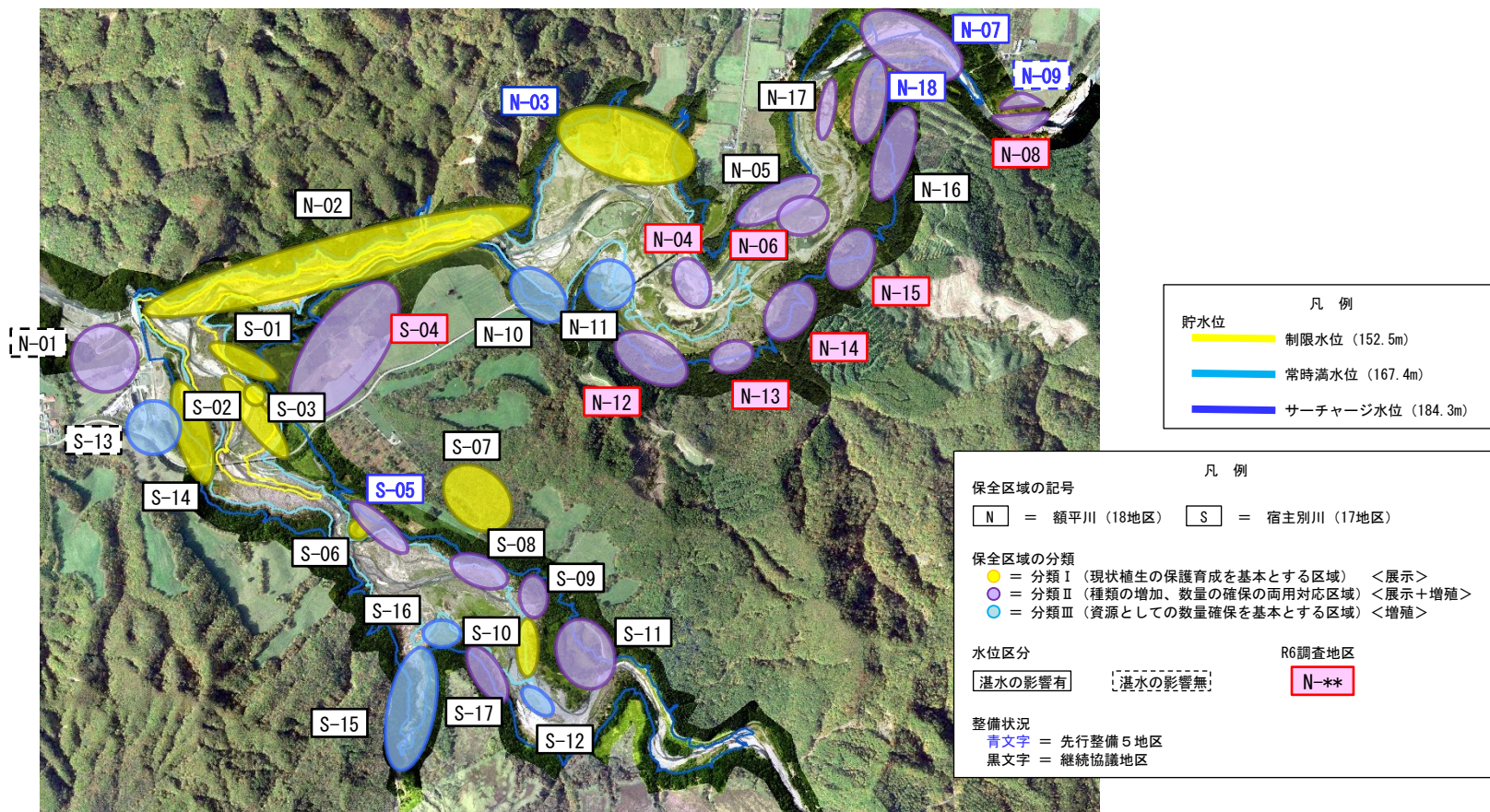
ポロシリ山じまいの儀式（10/1）

令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

2. 生物の生存環境に係る保全対策の検討

・有用植物保全区の整備状況とモニタリング調査について

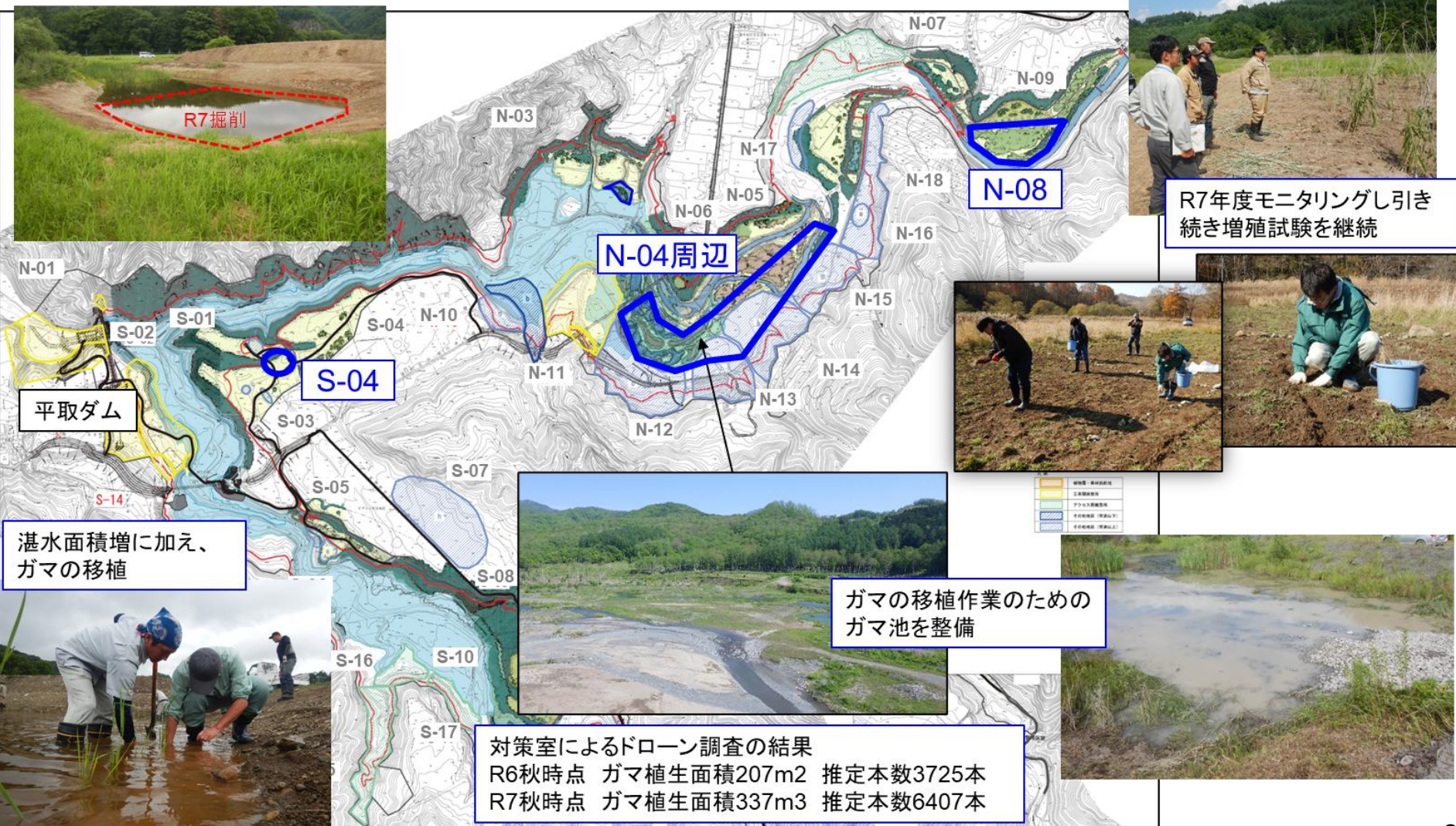
- ・ 先行的に整備を実施している5地区（湛水の影響の少ない）は、圃場の整備や栽培、植栽等を実施。その他の地区は、湛水の影響や植物の再生状況等をモニタリングしながら、継続的に保全方針を協議し保全対策を進める。
- ・ 令和7年度は、N-08, N04地区～N06及びN12～15の一部（骨材採取跡地）, S-04にて保全対策調査を継続し実施。



令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

2. 生物の生存環境に係る保全対策の実施

- ・N08地区において、ヨシの増殖に向けて周辺ヨシを株分け移植、穂の植え付け。
- ・N04地区～N06及びN12～15の一部（骨材採取跡地）において、ガマの増殖に向けて夏期モニタリング、ガマ池の整備を実施。
- ・S04地区において、過年度施工ガマ池の拡大とガマの移植を実施。



令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

5. アイヌ文化の普及方策

・ノカピライウォロビジターセンターの活用について

- ・ノカピライウォロビジターセンターで計3回のイベントを実施



春の体験 (5/25)



夏の体験会 (7/26)



夏の体験会 (7/26)



冬の体験 (12/13)

令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

各保全対策の実施状況

1. 精神文化の保全対策

- 先祖を思う記憶（心）と祈りの行為による保全
 - ポロシリ山終いに伴う儀礼行事の実施



ポロシリ山終いの儀礼（10/1）

- 記録による保全

- 保全対象のモニタリングの実施



保全対象のモニタリング（通年）

2. ①植物の保全対策

- 保全モデル地区設定

- 有用植物保全区の有効植物の調査・移植後のモニタリング、伝統民具の製作を実施



シキナ（ガマ）モニタリング調査
（8/27）



スプキ（ヨシ）播種試験（10/30）

令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

2. ②魚類の保全対策

・伝統的漁法の伝承

- ・ピパの移植飼育試験、伝統漁法の漁具や漁法の再現



ピパ(カワシンジュガイ)移植飼育試験 (11/10)



伝統的漁法の再現 (10/9)

2. ③動物の保全対策

・多様な森林環境の再生・復元

- ・多様な森林環境を再生・復元し、生息環境の調査を実施



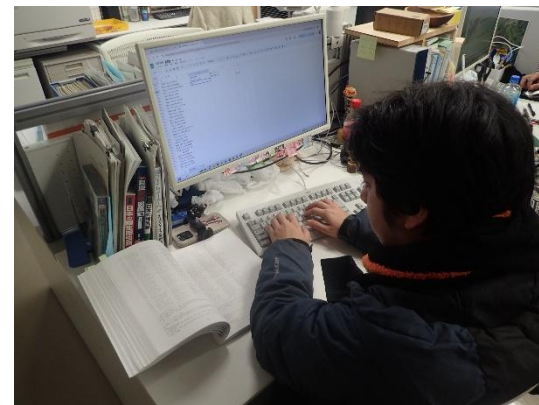
トレカム (自動撮影カメラ)
カード交換 (2/4)



トレカムで撮影されたクマ (8/24)

・口承文芸の継承

- ・沙流川流域で継承されている口承文芸等の動物に係る内容を抽出し整理



文献調査 (2/4)

令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

3. 生活文化の保全対策

・川洲畑の栽培実証実験

- ・川洲畑再現マニュアルに基づく川洲畑実証試験の実施、収穫物を利用した食文化試行



本町川洲畑播種作業 (5/28)

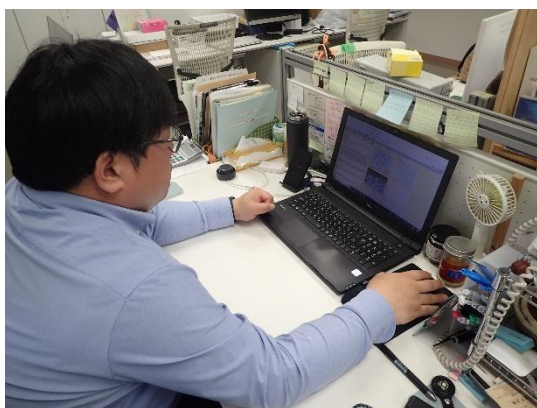


収穫物を利用した食文化試行 (7/11)

4. 文化景観の保全対策

・アイヌ語地名の継承

- ・沙流川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレットを活用した体験学習の実施



アイヌ語地名データベース更新 (通年)



沙流川流域アイヌ語地名現地踏査 (5/22)

令和7年度の地域文化に係る保全対策案に関する調査・検討

5. アイヌ文化の普及方策

・人材育成・運営体制の整備

- ・アイヌ文化体験プログラム(案)を用いて小学生を対象とした体験学習を実施



ウレクrekでの子どもの遊び体験 (7/12)



貫気別小学校アイヌ文化学習(全校 全7回) (9/13)

6. 栽培実験の継続

・実証実験

- ・植物栽培マニュアルに基づき、有用植物の移植試験及び播種栽培試験の実施



シキナ(ガマ)の播種作業 (4/7)



S-04保全区への移植作業 (11/6)

地域文化調査の成果概要



2025（令和7）年度

北海道平取町

アイヌ施策推進課 アイヌ文化保全対策室

アイヌ文化環境保全対策事業

2025（令和7）年度

＜ 沙流川流域地域文化調査業務 ＞ 1～8分野

作業分野	作業分野名称
1	精神文化保全対策に関する調査
2	1 生物の生存環境に関する調査 植物の保全対策に関する調査
	2 魚類の保全対策に関する調査
	3 動物の保全対策に関する調査
3	生活文化の保全対策に関する調査
4	地域文化の保全対策に関する調査
5	地域文化の普及方策に関する調査
6	栽培実験の継続に関する調査
7	沙流川河川整備箇所における現地調査
8	アイヌ文化保全対策の実施に向けた調整・整理

■ 概 括

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業												
業務分野	1 - 精神文化保全対策に関する調査												
業務項目	<p>(1) 現地調査</p> <p>平取ダム管理区域内における精神文化に係る保全対象のモニタリング調査（湧水箇所、山地等の定点撮影、湧水量調査等および聴き取り調査を含む）を行う。</p> <p>また、沙流川流域におけるカムイノミやアイヌ文化に係る調査等を行う。</p> <p>(2) データベース更新</p> <p>調査結果について、既存データベースの更新を行う。</p>												
※沙流川流域地域文化調査業務の記載事項を引用	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	● →											
	(1) 現地調査												
	保全対象のモニタリング (定点撮影・湧水調査含む)	● →											
	(ドローン撮影)	● → ● → ● →											
	カムイノミに関する調査 (聴き取り・文献調査含む)	● →											
	(実施儀礼)	● ● ● ● ● ●											
	(協力・記録儀礼)	● ● ●											
	アイヌ文化に係る調査等 (意向調査等)	● →											
	(2) データベース更新	● →											
	【調査結果とりまとめ】												
	(1) 報告書作成	● →											
	(2) 平取ダム地域文化 保全対策結果とりまとめ	● →											
	【検討会】	○											
担当	木村 真奈美												

■調査業務の成果

A. 現地調査

ア) 保全対象のモニタリング

- ① “シケレペコタン”のある家系のチノミシリ（我ら祭る所）
- ② “シケレペコタン”のある家系のチノミシリ
- ③ “荷負本村”の人たちのチノミシリ
- ④ ペテウコヒ（川が繋がった所）
- ⑤ カムイワッカ（神の水）と呼ばれる湧き水
- ⑥ 宿主別橋たもとの番兵小屋
- ⑦ 宿主別橋たもとの仮小屋
- ⑧ ペロ（ナラ）※コナラの枯れ木付近の番兵小屋
- ⑨ ピラホラク（ピラ＝崖、ホラク＝倒れる・壊れ落ちる）
- ⑩ すずらん群生地付近の番兵小屋
- ⑪ すずらん群生地奥のマタギ小屋
- ⑫ “荷負本村”のある家系のチノミシリへのカムイノミ（神への祈り）箇所
- ⑬ ペテウコヒ付近の三角小屋
- ⑭ カムイワッカと呼ばれる湧き水のカムイノミ箇所・利用箇所
- ⑮ “荷負本村”の男性D bさんとO bさんがカムイノミをしていた場所

イ) 場による保全箇所のモニタリング

ウ) 沙流川流域におけるカムイノミに関する調査

- ① 山菜採取時の儀礼
- ② 川洲畑試験地での儀礼
- ③ ヌササン（祭壇）の更新とポロシリ（幌尻岳）の山開きに伴う儀礼
- ④ ポロシリの山じまいに伴う儀礼
- ⑤ シペ（サケ）特別採捕での儀礼
- ⑥ ウトムヌカラ（結婚する）に関する調査
- ⑦ チプサンケ（舟おろし祭り）に関する調査
- ⑧ サスイシリ（悠久）におけるシンヌラッパ（先祖供養）に関する調査
- ⑨ 平取町・二風谷国際先住民族フォーラム 2025 における伝統儀礼
- ⑩ 宿主別チノミシリへのカムイノミに関する調査

エ) アイヌ文化に係る調査

- ① 体験学習
- ② 意向調査

B. データベースの更新

- ア) データベースの概要
- イ) データベースの更新状況
- ウ) カムイノミ祈詞集の更新について
- エ) カムイノミ所作マニュアルの更新について

C. 今後の課題

- ア) 現地調査に関する次年度に向けた課題
- イ) 眺望・祈りの場、記憶の場の利用に関する課題

■関連資料一覧

■参考文献・資料一覧

A. 現地調査

ア) 保全対象のモニタリング

⑤カムイワッカ（神の水）と呼ばれる湧き水

※水位の変化の状況も分かりやすく、影響も多い場所として詳細に記録。湧水状況・緑化試験状況も表中に記載。

保全対象の概要		
<p>宿主別橋の手前右側の湧き水は、カムイワッカとよばれ、カムイノミ（神への祈り）の対象になっています。カムイワッカの名前は、荷負本村の男性D bさんが宿主別で牧場番をしていた頃、この水を飲んでいて冷たくておいしい水だからカムイワッカと名前をつけたそうです。荷負本村の女性Baさんはカムイワッカについて「ポンナイと呼んで飲み水にしていた。姑さんNcさん達は、カムイワッカと呼んでおり、本当にきれいな良い水だった」と語っています。荷負本村の女性Bさんは、今でもそこにお祈りをしています。現在もカムイノミの対象であることがわかりました。【平取町2006年『総括報告書』P221-222】</p>		
位置する場所	P1の地図番号=★5 宿主別川左岸、旧宿主別橋よりやや下流（制限水位～常時満水位間）	
定点撮影		
全体の状況 [調査日：2005. 4. 24]	緑化の状況 [調査日：2005. 4. 24]	湧水の状況 [調査日：2005. 4. 24]
		
全体の状況	<ul style="list-style-type: none"> 雪解けも進み、全体が確認できる。斜面が数か所崩れ落ちているのを宿主別橋の上から確認できる。 地盤が沈下しているためか、旧道（道々芽生貫気別線）下の排水管が露出している。 石組み周辺には流木が散乱していた。 旧宿主別橋のカムイワッカ側の橋のたもとには、土砂が15cm程堆積している。（4/17には旧宿主別橋周辺の土砂の除去が終了していたのを確認した） 	
緑化の状況	<ul style="list-style-type: none"> 湧水を中心に左側の斜面が数か所と右側1か所が崩れ落ちており、下に土砂が堆積している。 堆積した土砂にはスス（ヤナギ類）が生育している。湧水が流れている周辺には水辺や湿地を好む草本類が生育し、上段にはフツタ（笹）も確認できる。湧水上段の伐株が崩れ落ちそうになっている。 	
湧水の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◎調査時間/10:15 ◎天気：晴れ ◎現地気温：20℃ ◎水温：6.5℃ パイプから湧水が流れ出ているのを確認した。前日の降雨により水量はあった。 染み出した湧水は旧道に流れ出ており、旧宿主別橋の方面へ流れ泥で歩きづらい状況になっている。 	
全体の状況 [調査日：2005. 5. 15]	緑化の状況 [調査日：2005. 5. 15]	湧水の状況 [調査日：2005. 5. 15]
		
全体の状況	<ul style="list-style-type: none"> 数か所崩れている斜面は地表が剥き出しになっており、周辺には流木が散乱している。 宿主別川への注ぐ排水管が崩れているままの状態になっている。 	
緑化の状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に斜面の植物の密度は低く、所々にアイラブキナ（クサソテツ）、イコクッタラ（オオイタドリ）が確認できた。斜面上段には、ケネ（ハンノキ類）、レタツタニ（シラカンバ）が生育している。 湧水を中心にいずれの斜面の裾にはススが生育している。 	
湧水の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◎調査時間：10:15 ◎天気：晴れ ◎現地気温：22℃ ◎水温：7.7℃ パイプから湧水が流れているのを確認した。湧水は石組みを伝っているため、足元は滑りやすくなっている。 	
全体の状況 [調査日：2005. 6. 24]	緑化の状況 [調査日：2005. 6. 24]	湧水の状況 [調査日：2005. 6. 24]
		
全体の状況	<ul style="list-style-type: none"> 希少動物の保護期間は、まだ解除されていなかった。 宿主別橋の上から見ても全体的に緑が濃くなってきている。 	
緑化の状況	<ul style="list-style-type: none"> 一部崩れた斜面は地表が剥き出しのままになっている。 斜面下の道路際には多くのススが生育している。斜面中段辺りには、イコクッタラが群生しており、湧水周辺には、水を好む草本が繁茂している。 	
湧水の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◎調査時間：9:35 ◎天気：晴れ ◎現地気温：28℃ ◎水温：9℃ パイプから湧水が流れているのを確認した。流量は少なくはなかった。 	

ドローン撮影

(制限水位以下 4～6月)
調査日：2025. 4. 17



(制限水位 7～11月)
調査日：2025. 8. 28



(常時満水位 12～3月)
調査日：2026. 1. 22



◆確認状況

[制限水位以下]

- ・川の状態になるため、影響はない。
- ・宿主別川の川原の立ち枯れた樹木がかなり減少しているのが確認できた。
- ・旧宿主別橋やカムイワッカ周辺は、土砂が堆積し、全体的に茶色く見える。

[制限水位]

- ・水位は、旧宿主別橋の橋脚が隠れるぐらいの水位になっており、影響はない。
- ・景観的には湖水面も青く、湖周の水際の地表も水位によって目立たなくなっている。
- ・今年度は、制限水位期間に降雨等の影響で一度も水没していない。
- ・水位は旧宿主別橋の欄干下までとなっている。

[常時満水位]

- ・水位は上昇し、水没したまま凍結したダム湖の下になっている。
- ・凍結したダム湖の範囲（貯水面）が確認できる。

参考写真

カムイワッカの雪解けの状況（常時満水位→制限水位以下になるまで）

調査日：2025. 1. 23



調査日：2025. 3. 4



調査日：2025. 3. 12



調査日：2025. 3. 19

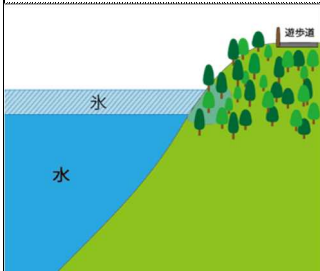


調査日：2025. 4. 11

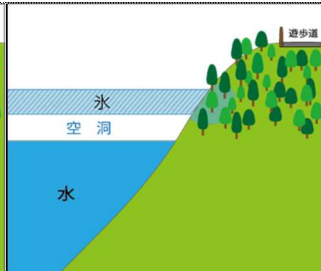


懸念されていた事項

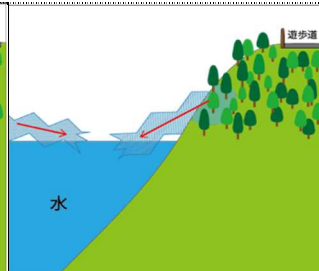
【2015-16 調査報告書 1-精神文化保全対策に関する調査 P36 湖岸への影響予測イメージ図】より引用



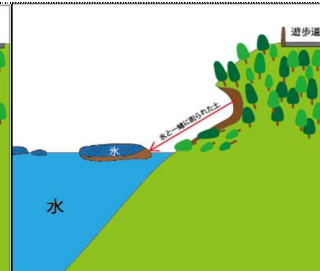
①冬になり、表面が氷る。斜面にも氷がつく。



②運用により水位を下げる。結水中に水位が下がると空洞ができる。



③氷が割れて落ち込む。この時斜面についていた氷も一緒に引っ張られる。



④斜面についていた氷と一緒に土も持っていかれ、斜面が削れる。





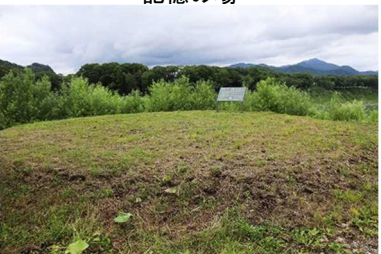



- ・現在、カムイワッカは、雪解け時期（常時満水位から制限水位以下に水位が下降する際）に懸念されていた事項のような状況になっているのが記録写真からも分かります。（黄色破線箇所は、4月11日時点の雪解け後、崩れているのが確認できた箇所）

イ) 場による保全箇所のモニタリング

精神文化に関わる保全対象の「場による保全（眺望・祈りの場、記憶の場、記憶の印、番兵小屋跡地、カムイワッカ（神の水）と呼ばれる湧き水）」の整備後の状況について、モニタリングを実施しました。



R6 (2024) 年3月22日【第24回
平取ダム地域文化保全対策検討会
資料-2 P5】より引用

記憶の印・記憶の場・跡地	整備内容	現地状況	状況写真等
<p>記憶の印・記憶の場・跡地 番兵小屋を示す印</p> 	<p>ふくろう モニュメント * 2010 年設置 * 2011 形状修正 * 2013 一部破損 * 2013 修復設置 * 2021 塗り替え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に変色や形状変化なし ・周辺の木の葉が生い茂る ・夏季は、車中からは確認しづらいが木の葉が枯れる時期は見通しが良い ・支柱の文字も確認できる 	<p>状況写真 2025. 10. 21</p> 
<p>番兵小屋を示す印</p> 	<p>アイヌ文様入り 欄干表示板 * 2010 年設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文様の角のラインが一部色落ちしている (2021 年には確認) ・傷や汚れあり ・冬期間は撤去されている 	<p>状況写真 2025. 5. 15</p> 
<p>記憶の場</p> 	<p>解説板 * 2022 年設置 * 2025 年面版 取替</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解説板の面版が撤去され、新しい面版が設置された ・周辺の樹木の生育により解説板で紹介されているペテウコヒ（川が繋がった所）等の保全対象が確認しづらくなっている 	<p>状況写真 2025. 8. 28</p> 
<p>番兵小屋跡地</p> 	<p>解説板 * 2022 年設置 * 2023 年鳥よけ 設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表示面にひび割れなし ・鳥のフン害は少ない 	<p>状況写真 2025. 5. 15</p> 

ウ) 沙流川流域におけるカムイノミ (神への祈り) に関する調査

今年度、実施した儀礼や現在、沙流川流域で行われているアイヌの儀式・儀礼について、調査を行いました。以下に実施した儀礼や調査を行った儀礼の概要を整理しました。

取り組んだ儀礼		
<p>調査名：山菜採取時の儀礼</p>  <p>実施日：4月28日(月) 開催地：芽生 参加者：6名 対策室、地域おこし協力隊、レア・ロベス氏 内容：山菜採取前の安全を祈願した儀礼</p>	<p>調査名：川洲畑播種時の儀礼</p>  <p>実施日：5月28日(水) 開催地：本町試験畑 参加者：21名協力者、河川事務所、対策室 内容：播種前に安全と豊作を祈願した儀礼</p>	<p>調査名：川洲畑収穫時の儀礼</p>  <p>実施日：9月8日(月) 開催地：本町試験畑 参加者：15名協力者、河川事務所、対策室 内容：収穫後の感謝の気持ちを込めた儀礼</p>
<p>調査名：ヌササン(祭壇)の更新とポロシリ(幌尻岳)の山開きに伴う儀礼</p>  <p>実施日：6月28日(土) 開催地：ノカピライウォロ・ビジターセンター屋外 ヌササン 参加者：45名 平取町山岳会、環境省新ひだか自然保護官事務所、平取ダム管理支所、幌尻山荘管理人代表、対策室、協力者 内容：ポロシリ登山の安全を祈願した儀礼</p>	<p>調査名：ポロシリの山じまいに伴う儀礼</p>  <p>実施日：10月1日(火) 開催地：ノカピライウォロ・ビジターセンター屋外 ヌササン 参加者：16名 平取町山岳会、環境省新ひだか自然保護官事務所、平取ダム管理支所、対策室、協力者 内容：何事もなく無事にポロシリ登山を終えたことの報告と感謝の意味を込めた儀礼</p>	<p>調査名：シペ(サケ)の特別採捕時の儀礼</p>  <p>実施日：10月9日(木) 開催地：沙流川支流アベツ川 参加者：20名 河川事務所、平取町関係者 対策室 内容：採捕の安全を祈願した儀礼</p>
協力した儀礼		
<p>調査名：ウトムヌカラ(結婚する)</p>  <p>実施日：8月23日(土) 開催地：二風谷コタンシネチセ 参加者：107名 平取アイヌ協会青年部、新太郎、新婦、親族、関係者、対策室一般見学者 内容：平取アイヌ協会青年部主催のアイヌの伝統的な結婚式</p>	<p>調査名：第56回チブサンケ(舟おろし祭り)</p>  <p>実施日：8月24日(日) 開催地：二風谷コタントゥペサンチセ、沙流川 参加者：チブサンケ実行委員会、平取町関係者、一般参加者他 内容：チブサンケ実行委員会主催のチブサンケに伴う儀式</p>	<p>調査名：平取町・二風谷国際先住民族フォーラム2025 伝統儀礼</p>  <p>実施日：9月24日(水) 開催地：二風谷コタン トゥペサンチセ 参加者：45名 フォーラム実行委員、事務局、平取町関係者、招聘ゲスト他 内容：フォーラムの成功と関係者の無事を祈る儀式</p>
協力した儀礼		記録のみの儀礼
<p>調査名：宿別チノミシリ(我ら祭る所)へのカムイノミ</p>  <p>実施日：10月13日(月) 開催地：平取町芽生レチノミシリ ミンタラ(眺望・祈りの場-3) 参加者：22名 実施者、河川事務所、対策室 内容：先祖が行っていたカムイノミを子孫が継承している儀礼</p>	<p>調査名：サスイシリ(悠久)におけるシンヌラッパ(先祖供養)</p>  <p>実施日：8月31日(日) 開催地：平取町慰霊施設サスイシリ 参加者：24名 平取アイヌ協会、平取アイヌ文化保存会、平取町関係者他 内容：平取アイヌ協会主催の慰霊施設でのシンヌラッパの儀式</p>	

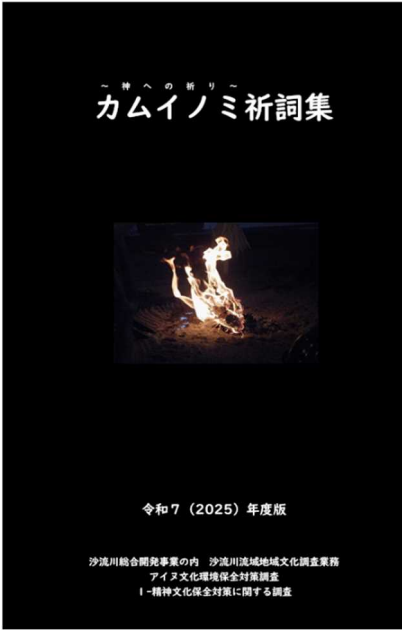

B. データベースの更新

ウ) カムイノミ（神への祈り）祈詞集の更新について

これまで調査として記録・収集した平取町内で執り行われた儀式での祈詞を一冊にまとめました。今年度は、対策室ならびに平取町で新たに実施した儀礼とこれまでの儀礼で修正された祈詞を更新しました。

◎祈詞集の概要

※今年度の更新は、1～4

記載内容			
 <p>令和7（2025）年度版</p> <p>沙流川総合開発事業の内 沙流川流域地域文化調査事業 アイヌ文化環境保全対策調査 I-精神文化保全対策に関する調査</p>	<p>◆目次◆</p> <p>2025年</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宿主別チノミシリ（我ら祭る所）へのカムイノミ*改定版 2. 平取町・二風谷国際先住民族フォーラム2025『伝統儀礼』 3. 川洲畑での播種時・収穫時のカムイノミ*修正版 4. 山菜採取時のカムイノミ <p>2024年</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ポロシリ（幌尻岳）山開きのカムイノミ 6. ポロシリ山納めのカムイノミ 7. 川洲畑での播種時のカムイノミ 8. 川洲畑での収穫時のカムイノミ <p>2022年</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. チセノミ（新築祝い）*ノカピライウオロビジターセンター 10. シシリムカ アピリカレ カムイノミ（沙流川をより良くする祈り） <p>2021年</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. チセノミ *イオル文化交流センター 12. サスイシリ（悠久）におけるシンヌラップ（先祖供養） 13. 第52回チブサンケ（舟おろし祭り） *2023年ハシナウカムイノミ イタク追加版 14. イオル文化交流センターに伴うチセコッエイノンノイタク（地神祭） <p>2020年</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 慰霊施設サスイシリ（悠久）の新築に係る「チセノミ（家の新築を祝う儀式）・シンヌラップ」 16. トウペサンチセ修繕前のカムイノミ 17. アシリチュプノミ（新しい鮭を迎える儀式） <p>2017年</p> <ol style="list-style-type: none"> 18. チセコッエイノンノイタク*ノカピライウオロ・ビジターセンター <p>2016年</p> <ol style="list-style-type: none"> 19. 宿主別チノミシリへのカムイノミ 20. 上貫気別におけるシンヌラップ <p>2015年</p> <ol style="list-style-type: none"> 21. チノミシリ掘削にあたって思いを語り合い祈りを捧げる集い 22. チセ複製事業チセノミ*シシリムカアイヌ文化研究会 <p>2014年</p> <ol style="list-style-type: none"> 23. 平取ダム建設工事に係るカムイノミ <p>2013年</p> <ol style="list-style-type: none"> 24. ウトムヌカラ（結婚する） <p>2012年</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. ウトムヌカラ <p>2011年</p> <ol style="list-style-type: none"> 26. チセ復元に係るチセコッエイノンノイタク *イオルチセ <p>2007年</p> <ol style="list-style-type: none"> 27. 平取ダム付替道路工事に係るカムイノミ 		
記載の一例			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2024年6月29日：ポロシリ（幌尻岳）山開きのカムイノミ（神への祈り） （アイヌ文化環境保全対策事業による実施）</p> <p>※協力者：平取町アイヌ文化振興公社/川原野村色氏、祈詞監修：原田啓介氏 20240628 幌尻岳山開きの祈詞</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> ポロシリン カムイ ポロシリ エトコホ ポロ ヌプリ ベケレ チュフカシ リクン モシリ ワ アイヌ モシリ エブンキネ クス アランケ クニ プ ハセ カマイ タバン トノト タバン イナウ アニ クコオンカミ シリ タバン ナ ナサント ワノ ノロ ミンダツ オツク エキムネアシ クシ ネ コロカ ネツ イチラ カ チキ カ ソモ キ クル タバン シノツ ネツカ イユニン サツノ ハバウ サツノ ビリカノ シベツテカ クニ ウネブンキネ ワ ウンコレ ヤン カマイブンキ アン ベ ネ ナ コンカミナ </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> 幌尻岳の神 ポロシリ奥の 大岳の 晴るい東側の上 天界から 人間界を 守るために 天を下った 重鎮の神 この神酒と この御幣で 私は礼拝 いたしますよ 本日より あなたの庭に 我々は入りますが 何の忌でも しませんので この行事が 何の怪我も無く 嫌な噂もなく 無事終わるよう 私たちをお守り くださいませ 神のご加護がありますように 私は礼拝いたします </td> </tr> </table>  <p style="text-align: center; font-size: small;">【2024-25 アイヌ文化環境保全対策調査「調査報告書」I-精神文化保全対策に関する調査 P.28、29】</p> </div>	ポロシリン カムイ ポロシリ エトコホ ポロ ヌプリ ベケレ チュフカシ リクン モシリ ワ アイヌ モシリ エブンキネ クス アランケ クニ プ ハセ カマイ タバン トノト タバン イナウ アニ クコオンカミ シリ タバン ナ ナサント ワノ ノロ ミンダツ オツク エキムネアシ クシ ネ コロカ ネツ イチラ カ チキ カ ソモ キ クル タバン シノツ ネツカ イユニン サツノ ハバウ サツノ ビリカノ シベツテカ クニ ウネブンキネ ワ ウンコレ ヤン カマイブンキ アン ベ ネ ナ コンカミナ	幌尻岳の神 ポロシリ奥の 大岳の 晴るい東側の上 天界から 人間界を 守るために 天を下った 重鎮の神 この神酒と この御幣で 私は礼拝 いたしますよ 本日より あなたの庭に 我々は入りますが 何の忌でも しませんので この行事が 何の怪我も無く 嫌な噂もなく 無事終わるよう 私たちをお守り くださいませ 神のご加護がありますように 私は礼拝いたします	<p>1 = 儀礼の実施日・儀礼タイトル・実施者・主催者</p> <p>2 = 特記事項 (修正箇所や追加箇所の事項・祈詞の監修者等)</p> <p>3 = 祈詞のアイヌ語（カナ表記）</p> <p>4 = 祈詞の日本語訳</p> <p>5 = 調査時の写真（対策室撮影）</p> <p>6 = 資料提供元・提供者・参考資料の引用元 報告書からの引用ページ等</p>
ポロシリン カムイ ポロシリ エトコホ ポロ ヌプリ ベケレ チュフカシ リクン モシリ ワ アイヌ モシリ エブンキネ クス アランケ クニ プ ハセ カマイ タバン トノト タバン イナウ アニ クコオンカミ シリ タバン ナ ナサント ワノ ノロ ミンダツ オツク エキムネアシ クシ ネ コロカ ネツ イチラ カ チキ カ ソモ キ クル タバン シノツ ネツカ イユニン サツノ ハバウ サツノ ビリカノ シベツテカ クニ ウネブンキネ ワ ウンコレ ヤン カマイブンキ アン ベ ネ ナ コンカミナ	幌尻岳の神 ポロシリ奥の 大岳の 晴るい東側の上 天界から 人間界を 守るために 天を下った 重鎮の神 この神酒と この御幣で 私は礼拝 いたしますよ 本日より あなたの庭に 我々は入りますが 何の忌でも しませんので この行事が 何の怪我も無く 嫌な噂もなく 無事終わるよう 私たちをお守り くださいませ 神のご加護がありますように 私は礼拝いたします		

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業												
業務分野	2 - 生物の生存環境に関する調査 1 植物の保全対策に関する調査												
業務項目	<p>(1) 有用植物調査 ア) 沙流川流域において、有用植物の植生状況及び生育適地について現地調査を行い、とりまとめる。 イ) 調査箇所から採取した有用植物を利用し、展示や儀礼等に必要な民具等の制作を行う。</p> <p>(2) モニタリング調査 沙流川流域において、有用植物の材料採取地の調査を行う。また、伝統的な工芸等に利用する材料確保のため、材料採取地において、栽培管理や増殖等を行う。</p> <p>(3) データベース更新 調査結果について、既存データベースの更新を行う。</p>												
年間作業工程	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	(1) 有用植物調査												
	現地調査	●→											
	民具等の制作	●→											
	(2) モニタリング調査												
	材料採取地の調査、栽培管理	●→											
	(3) データベース更新	●→											
	【調査結果とりまとめ】												
	(1) 報告書作成	●→											
	(2) 平取ダム地域文化 保全対策結果とりまとめ	●→											
	【検討会】												○
担当	黒川 賢司												

■調査業務の成果

A. 有用植物調査

ア) 現地調査

- ①植物保全区域分け地図
- ②調査箇所位置図
- ③荷負地区地現地調査
- ④紫雲古津地区
- ⑤過年度河道掘削箇所
- ⑥本町上流現地調査

イ) 材料採取と民具製作

- ①イノウ（木で削った御幣のような物）の製作
- ②ヌササン（祭壇）更新準備
- ③ヌササン（祭壇）の更新
- ②二風谷コタン DAY
- ③カックイ（差し杭）製作・その他材料採取

B. モニタリング調査

ア) スヅキ（ヨシ）の栽培試験

- ①N-08 保全区
 - 〈a〉スヅキ株移植試験
 - 〈b〉播種試験
 - 〈c〉スヅキ（ヨシ）自生地の整備
- ②本町地区対岸
- ③本町地区親水公園スヅキ（ヨシ）表土移植箇所

イ) シキナ（ガマ）の栽培試験

- ①S-04 保全区
 - 〈a〉シキナの池整備
 - 〈b〉シキナ（ガマ）苗の移植
 - 〈c〉移植後の確認
- ②豊糠骨材採取跡地
 - 〈a〉シキナ（ガマ）池の整備状況
 - 〈b〉モニタリング調査
 - 〈c〉周辺調査と苗の移植

ウ) ペカンペ（ヒシ）栽培試験

■関連資料一覧

イ) 材料採取と民具製作

①イノウ (木で削った御幣のような物) の製作

山開きにあわせてノカピライウオロビジターセンターのヌササン (祭壇) の更新に向けたイノウ製作を行いました。材料採取からイノウの製作のほとんどを対策室で準備しました。

イノウの製作



イノウの製作材料のスス (ヤナギ類) は主に紫雲古津地区から採取しました。



採取したスス



表皮を剥いて乾燥



イノウを作る道具





キケパラセイノウ (削りかけを散らしてあるイノウ) 製作の様子



チェホロカケイノウ (逆さ削りのイノウ) 製作の様子

〈b〉 播種試験

今年度は新たに増殖の方法として、種子を採取して播種試験を行いました。あらかじめ周辺のスヱキ（ヨシ）群落から穂だけを刈り取り集めておきました。N-08 保全区内に耕起したエリアを設定し、畝を作って準備しました。今回は穂の半分だけ埋める植え付け方を試しました。以前、行ったトレーでの播種試験では、発芽・生育が確認できています。

N-08 保全区スヱキ播種試験		
		
耕起した試験地	播種後の全景	
		
1 m幅で畝作り	採取したスヱキの穂	
		
30 cm間隔で播種	播種した穂	
		
播種後足で軽く土かけ	根元を軽く埋める	播種後の様子

イ) シキナ（ガマ）の栽培試験

①S-04 保全区

〈a〉シキナの池整備

S-04 シキナの池は今までのエリアではシキナ群落広がっています。かなり密集した状況だったこともあり今年度、池が拡幅されました。拡幅されたエリアへのシキナの苗の移植に向けて周辺の除草作業も行っています。

S-04 シキナの池



フットパス沿いにあるシキナの池



池の右側は現在育成中のシキナ群落



重機で拡幅工事



斜面の勾配も緩やかに



工事直後の池の様子



池周辺の除草作業を実施。2 m近く伸びた雑草は刈り払い機で、平らなエリアは乗用草刈り機で整備。



除草作業後の様子。池の奥に見えているスス（ヤナギ類）群落は今後伐採予定。

〈b〉シキナ（ガマ）苗の移植

S-04 シキナの池の拡幅したエリアへの移植作業が行われました。鶴川沙流川河川事務所との協働で、対策室で育てたシキナの苗を池の水際に移植しました。まだ池の底が落ち着いてなく、石が多く、スコップが刺さりづらい状況でしたが、全部で124株の苗を植え付けました。

S-04 シキナ移植試験



拡幅したエリア



移植するシキナの苗



作業前打ち合わせ



最深部で水深 90 cm



水際へ植え付け



二人一組で作業



作業風景



作業状況



作業の様子



植え付け後の様子



水際に 124 株移植

■ 概 括

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業												
業務分野	2 - 生物の生存環境に関する調査 2 魚類の保全対策に関する調査												
業務項目	(1) モニタリング調査 ア) 沙流川流域において、アイヌ文化に係る魚類の良好な生息環境保全のための生態調査を行う。また、ピパ（カワシンジュガイ）の生息状況について調査を行う。 イ) 平取ダム事業用地内において、自然工法（木流し等）により創出した魚類の生息環境のモニタリング調査を行う。												
※沙流川流域地域文化調査業務の記載事項を引用	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●	→										
	許可証の申請・調整	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	(1) モニタリング調査												
	生息調査			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	伝統的漁具の作製・補修	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	伝統的漁法試行			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	シベ（サケ）遡上確認・特別採捕						●	→	→	→	→	→	→
	ピパ飼育試験	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	ピパ生息環境調査			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	水生生物生息環境整備（親自然工法）試行	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	【調査結果とりまとめ】												
	(1) 報告書作成	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	(2) 平取ダム地域文化保全対策結果とりまとめ	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
【検討会】												○	
担当	久保 拓史												

■調査業務の成果

A. 調査計画の検討

- ア) 伝統的漁法に係る作業の流れ
- イ) 実証試験の実施概要
- ウ) 川漁実施のための手続きに関する情報収集と整理
 - ①特別採捕申請・許可・実施の流れ
 - ②特別採捕申請手続きの流れ
 - ③さけ・ます供与申請手続きの流れ

B. 実証試験

- ア) 水生生物の生息調査
 - ①水生生物の生息域観測地設定及び特別採捕試行箇所位置図
 - ②シペ（サケ）・サキペ（マス）※サクラマス遡上確認調査
 - ③二風谷ダムを遡上する魚種データ
 - ④平取ダムを遡上する魚種データ
- イ) 伝統的漁法を用いた特別採捕の試行
 - ①伝統的漁法・漁具の概要
 - ②雑魚すくい試行調査
 - ③シペ（サケ）の特別採捕実施状況
 - ④食文化再現調査
- ウ) ピパ（カワシンジュガイ）に関する調査
 - ①ピパ（カワシンジュガイ）の生息環境調査及び採捕
 - ②ピパ（カワシンジュガイ）移植飼育試験
 - 〈a〉ピパ（カワシンジュガイ）の追加移植
 - 〈b〉モニタリング調査
 - 〈c〉サキペ（マス）※サクラマス稚魚の放流
 - 〈d〉成長値の測定
- エ) シペ（サケ）稚魚放流体験の実施
- オ) 「親自然（多自然）工法」による水辺環境整備
 - ①親自然工法試行に向けた現地調査と作業の流れ
 - ②木流し工法モニタリング

C. 今後に向けた計画と課題の整理

■関連資料一覧

■参考文献一覧

③シペ（サケ）の特別採捕実施状況

沙流ふ化場よりシペ20尾の供与を受け、アベツ川にて伝統的漁法の特別採捕を実施しました。

◎特別採捕実施内容一覧

試行日時と場所	
◇日時 令和7年10月9日（木） 10：45～11：45（シペ特別採捕） 12：00～16：00（食文化試行・シペ加工処理）	
◇場所 沙流川支川水系アベツ川の沙流川合流点から道道平取門別線垂別橋までの区域	
◇シペ供与数 20尾 ◇天候 晴れ	
準備用具	
儀礼用供物（酒、塩、米、焼き干し）、焼き台、炭3kg、トング、コンテナ2個、鋸、鉋、ネット、ポリタンク、軍手桶（大小）、バケツ、カナテコ、カケヤ、レーキ、スコップ、タオル、新聞紙、特別採捕許可看板、防水カメラ	
試行漁具	
 <p>マレプ（自在もり）</p>	 <p>アプ（流し鉤）</p>

令和7年10月9日 特別採捕実施			
 <p>さけ・ます孵化場よりシペ20尾の供与を受け、アベツ川へ運搬。</p>	 <p>シペ到着までの間、アベツ川に築組を完成させ、放流場を確保します。</p>	 <p>築組完成の様子。シペの放流に合わせ、水位を調整します。</p>	 <p>アベツ川到着後、コンテナでシペを川まで運び、放流します。</p>
 <p>放流したシペが落ち着くのを待ちます。</p>	 <p>待ち時間の間、周辺のス（ヤナギ類）を使用しイサパキニ（魚叩き棒）を製作。</p>	 <p>完成したイサパキニ</p>	 <p>採捕開始前には儀礼を行いました。</p>
 <p>儀礼終了後には、各伝統的漁具の特徴や使用方法を説明しました。</p>	 <p>説明後は実際に伝統的漁具を使用し、シペを採捕しました。</p>	 <p>イサパキニを使用し急所（頭）を叩き、一発でシペをしめます。</p>	 <p>採捕したシペは、伝統的料理やアタツ（開き干しのサケ）に使用します。</p>

〈c〉 サキペ（マス） ※サクラマス稚魚の放流

ピパ（カワシンジュガイ）再導入に向けた取り組みの一環として、沙流ふ化場よりサキペ稚魚約2000匹の供与を受け、ピパウシ沢にてサキペ稚魚の放流を実施しました。

放流日時と場所	
◇日時	令和7年4月14日（月） 14：00～15：00
◇天候	雨
◇場所	ピパウシ沢①
◇稚魚供与数	約2000匹



準備した用具	
桶（200）、頑丈な袋（700程度）、エアポンプ、保冷パック、プラコップ、小型の魚すくい網、手拭きシート	

サキペ稚魚放流の様子



ピパの幼生（グロキディウム幼生）は、サキペのエラに寄生し成長します。そのためピパの生息条件の一つとしてサキペが遡上している川ということがあげられます。そこで、少しでも多くのサキペが遡上するようサキペの稚魚放流を実施しました。現在ピパウシ沢においては河川整備を施工中であり、この整備によりサキペのピパウシ沢への自然遡上が可能になると期待されます。放流した稚魚の経過観察も含め、来年度以降も継続して取り組んでいきたいと思っております。

北海道栽培漁業振興公社によるピパウシ沢生息調査



後日、北海道栽培漁業振興公社によるピパウシ沢生息調査が実施されました。放流したサキペ稚魚の残存数は少なかったですが、各個体放流時より成長している様子でした。栽培公社により、放流したサキペ稚魚のグロキディウム幼生寄生確認調査が行われましたが、寄生された個体は確認されなかったそうです。

〈d〉 成長値の測定

2024（R6）年9月よりピパウシ沢へ放流したピパですが、放流から約1年が経過したタイミングで一度引き上げ、現在の生存、成長値の測定を行いました。また、測定できた記録からそれぞれ表とグラフを作成しまとめました。



生存状況の確認

個体別に測定

測定終了後、再びピパウシ沢へ放流

◎R6年度放流 ピパ測定結果更新

採捕年	識別番号	殻長mm	殻高mm	殻幅mm
2024（R6）	1	86.7（-4.3）	43.0（2.0）	24.0（1.0）
	2		（斃死）	
	3	96.7（0.7）	44.0（1.0）	25.7（0.7）
	4	88.0（1.0）	41.8（-0.2）	25.5（0.5）
	5	91.4（1.4）	44.0（1.0）	25.2（0.2）
	6	90.2（0.2）	41.0（1.0）	22.9（0.9）
	7	103.0（2.0）	50.0（2.0）	29.0（0.0）
	8	84.3（0.3）	40.6（0.6）	23.6（-0.4）
	9	94.0（1.0）	44.0（2.0）	25.0（0.0）
	10	86.0（2.0）	41.5（1.5）	24.0（0.0）
	11	98.6（2.6）	47.0（1.0）	26.2（0.2）
	12	87.0（3.0）	42.0（1.0）	22.4（0.4）
	13	81.4（1.4）	40.5（0.5）	23.2（1.2）
	14	91.6（1.6）	42.5（1.5）	23.6（0.6）
	15	93.0（1.0）	43.5（0.5）	24.7（0.7）
	16	97.3（1.3）	45.0（0.0）	27.0（0.0）
	17	101.4（0.4）	49.4（0.4）	28.0（0.0）
	18	96.4（0.4）	45.6（0.6）	28.8（-0.2）
	19	90.5（0.5）	44.3（0.3）	27.5（1.5）
	20	80.7（0.7）	40.0（0.0）	23.0（0.0）
	21	103.0（0.0）	48.0（0.0）	28.3（0.3）
	22	91.0（2.0）	42.0（0.0）	25.0（0.0）
	23	87.0（1.0）	43.1（0.1）	24.0（0.0）
	24	95.0（1.0）	47.0（1.0）	28.0（0.0）
	25	105.0（2.0）	46.0（1.0）	28.0（0.0）
	26	85.7（0.7）	41.0（1.0）	23.1（0.1）
	27	85.5（1.5）	42.0（1.0）	23.0（0.0）
	28	96.0（2.0）	45.6（0.6）	25.7（0.7）
	29	81.4（1.4）	39.5（0.5）	24.6（1.6）
2023（R5）	30		（斃死）	
	31		（斃死）	
	32		（斃死）	

※殻長・殻高・殻幅の括弧内数値は前年度からの成長値を示している。

※識別番号1から15をピパウシ沢①、16から32をピパウシ沢②に移植した。

※識別番号2, 30, 31, 32は斃死してしまったのでグラフに反映されていない。

エ) シペ (サケ) 稚魚放流体験の実施

沙流ふ化場よりシペ稚魚約 1000 匹の供与を受け、沙流川にてシペ稚魚の放流体験を実施しました。アイヌ文化とシペの関わりやシペの生態について体験を通して学ぶことを趣旨とし、二風谷小学校の児童の皆さんに参加していただきました。

試行日時と場所	
◇日時	令和7年4月28日(月) 10:20~11:00
◇天候	晴れ
◇場所	沙流川(二風谷ダム直下の左岸)
◇稚魚供与数	約1000匹
◇参加人数	二風谷小学校児童17名
◇地元協力者	貝澤耕一氏
◇報道関係	北海道新聞社 日高報知新聞社



準備した用具
桶(200)、頑丈な袋(700程度)、エアポンプ、保冷パック、プラスチックコップ(500ml)30個、小型の魚すくい網、手拭きシート、手洗い用の水

シペ稚魚供与の様子



シペ稚魚の運搬は対策室で行いました。運搬に伴い、温度管理と酸素の供給に注意しました。桶の底に保冷パックを敷き温度上昇を避け、エアポンプによる酸素供給を行い稚魚の負担が小さくなるよう努めました。

シペ稚魚放流体験の様子



稚魚放流体験実施にあたり、事前にシケレベ沢河口部の形状について、児童に配慮して緩やかな地形に整地していただきました。

当日は、はじめに協力者の方よりアイヌ文化とシペとの関わり、シペの生態と河川環境についてご説明いただきました。シペの稚魚を目の前にどの児童達も興味をもって説明を聞いている様子でした。体験を通してアイヌ文化やシペについて学ぶだけでなく、河川と親しむ機会も提供できたかと思います。

■ 概 括

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業												
業務分野	2 - 生物の生存環境に関する調査 3 動物の保全対策に関する調査												
業務項目	(1) 文献調査 沙流川流域の口承文芸に係わる既往文献について調査を行う。 (2) モニタリング調査 平取ダム管理区域内において、アイヌ文化に係る動物の生息状況モニタリング調査を行う。 (3) データベース更新 調査結果について、既存データベースの更新を行う。												
※沙流川流域地域文化調査業務の記載事項を引用	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	(1) 文献調査	●→											
	(2) モニタリング調査	●→											
	(3) データベース更新	●→											
	【調査結果とりまとめ】												
	(1) 報告書作成	●→											
	(2) 平取ダム地域文化保全対策結果とりまとめ	●→											
【検討会】													○
担当	平村 彰隆												

■ 調査業務の成果

A. 口承文芸や踊りに関する文献調査

- ア) 調査した内容
- イ) 調査した文献等

B. データベースの更新

C. 現地調査

- ア) キムンカムイ（熊）※エゾヒグマ出没情報の掲示の更新
- イ) 動物紹介映像の作成
- ウ) 動物と口承文芸
- エ) 定点カメラによる動物の記録
 - ① S-04 保全区
 - ② S-05 保全区

D. 今後の方針

■ 関連資料一覧

■ 参考資料一覧

C. 現地調査

ア) キムンカムイ（熊）※エゾヒグマ出没情報の掲示の更新

ノカピライウオロ・ビジターセンターに来館される方向けに、平取町内で確認されたキムンカムイの痕跡や、目撃情報からビジターセンター周辺地域の出没情報を抽出し掲示を更新しました。平取町内のキムンカムイの出没情報については、平取町ホームページに掲載されている『クマ出没情報（Google マイマップ）』を参考にしています。



ビジターセンター周辺 クマ出没情報



掲示作業

イ) 動物紹介映像の作成

これまでの調査で撮影された映像を活用し、ノカピライウオロ標本園周辺の映像に絞って動物の紹介動画を作成しました。手持ちのカメラや、トレイルカム（自動撮影機）で撮影された動物映像をつなげたものになります。

この動画は、「第36回シシリムカアイヌ文化祭」で上映しました。来年度には、ノカピライウオロ・ビジターセンターの資料室にて上映を予定しています。



標本園動物動画

②S-05 保全区

撮影期間：①通年、②4月5日～12月5日

◎定点カメラ撮影方向



引用元：Google 社「Google Earth」

◎撮影方向写真

①



②



③



■ 概 括

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業												
業務分野	3 - 生活文化の保全対策に関する調査												
業務項目	<p>(1) 現地調査 沙流川流域において、既存の調査結果に基づき、川洲畑実証試験を行う。</p> <p>(2) モニタリング 川洲畑播種後の生育状況について観察を行い、生育環境の把握を行う。</p> <p>(3) データベース更新 収穫物を利用した食文化の再現を行い、既存データベースの更新を行う。</p>												
※沙流川流域地域文化調査業務の記載事項を引用	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	(1) 現地調査												
	川洲畑実証試験												
	試験地選定（協力者協同）／												
	事前準備	●→											
	播種作業	●→											
	収穫作業						●→	→					
	保存処理						●→	→	→				
	(2) モニタリング調査		●→	→	→	→	→	→	→	→			
	(3) データベース更新	●→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	食文化の再現	●→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	【調査結果とりまとめ】												
(1) 報告書作成							●→	→	→	→	→	→	
(2) 平取ダム地域文化 保全対策結果とりまとめ	●→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
【検討会】												○	
担当	及川 直美												

■調査業務成果

A. 調査計画の検討

ア) 生活文化の保全対策に関する調査の流れ

B. 現地調査

ア) 川洲畑実証試験

- ①現地確認から試験地決定までの流れ
- ②現地調査の概要
- ③これまで実施してきた試験箇所
- ④試験地の整備

イ) 播種作業

- ①作付け計画の作成

C. モニタリング調査

ア) 生育状況の観察および生育環境の把握

イ) 管理作業と整備

- ①獣害対策

ウ) 収穫作業

D. データベース更新

ア) 収穫物を利用した食文化の再現

イ) 食文化試行レシピの更新

ウ) 今年度、収穫した収穫物

- ①山菜・果実一覧
- ②栽培した作物一覧

エ) マニュアルの更新

- ①川洲畑再現マニュアルの更新
- ②雑穀・穀物などの収穫の手順と保存処理マニュアルの更新
- ③山菜の保存処理マニュアルの更新

E. 今後の課題

ア) 川洲畑試験地における次年度の課題

イ) 食文化試行における次年度の課題

- ①二風谷地区雑穀畑での雑考・穀物等の確保
- ②現地での山菜等の確保

ウ) 生活文化の保全対策に係るこれまでの検討状況

■関連資料一覧

■参考資料一覧

B. 現地調査

ア) 川洲畑実証試験

昔のアイヌの栽培方法として行われていた川洲畑について、栽培方法を伝承するための試験適地となる箇所での現地調査を行いました。調査箇所については、川洲畑試験適地の選定条件（砂利原ではない所、沖積土が主体=適当な地力と保水力を持った地形、少し雑草が生えているような所、風当たりの少ない所）を踏まえ、地域の協力者と現地状況を確認し、今年度は本町試験畑1か所を試験地と決定し、下記に現地確認から試験地決定までの流れを整理しました。

①現地確認から試験地決定までの流れ

(1) 事前に試験候補地ならびに春の現地状況を確認する。

現地調査 3/12



聴き取り調査 : 4/15



(2) 現地状況を確認後、試験地を決定する。

現地調査事業所同行 4/18



現地調査 (土壌確認) : 4/24



調査内容／現地状況の確認（土質・日当たり・水はけ・風当たり、面積の測定、周辺の状況等）及び播種する種類や作付け方法、確認したいことの聴き取り等

(3) 試験地決定後は、調査内容を整理し、鶴川沙流川河川事務所に関係書類を提出する。

(4) 鶴川沙流川河川事務所より使用許可が出た後に試験地の整備を行う。







縦 20m横 20m (200 m²) の範囲を測量今年度は計測範囲の表土を剥ぐ作業を行いました。



堆肥を撒いた後、起耕を行いました。

●今年度の生育状況のようす

本町試験畑


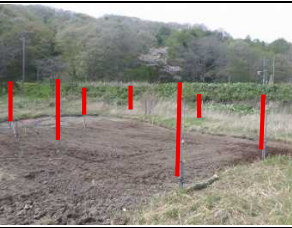
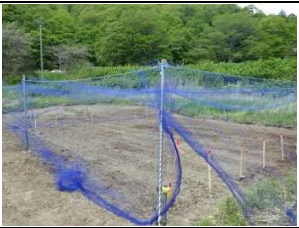


		
6月12日（木）生育は順調		7月7日（月）生育は順調
		
8月4日（月） ある程度生育した後で炎天下が続き、少し水分不足が続いたが、生育は充分な状態		

イ) 管理作業と整備

播種後、収穫までの期間、生育に応じた管理作業を行いました。管理作業については、モニタリング時に行い、対応できる作業については当日、準備等を必要とする作業については後日行いました。

① 獣害対策

収穫間近までに行った獣害対策を下記にまとめました。

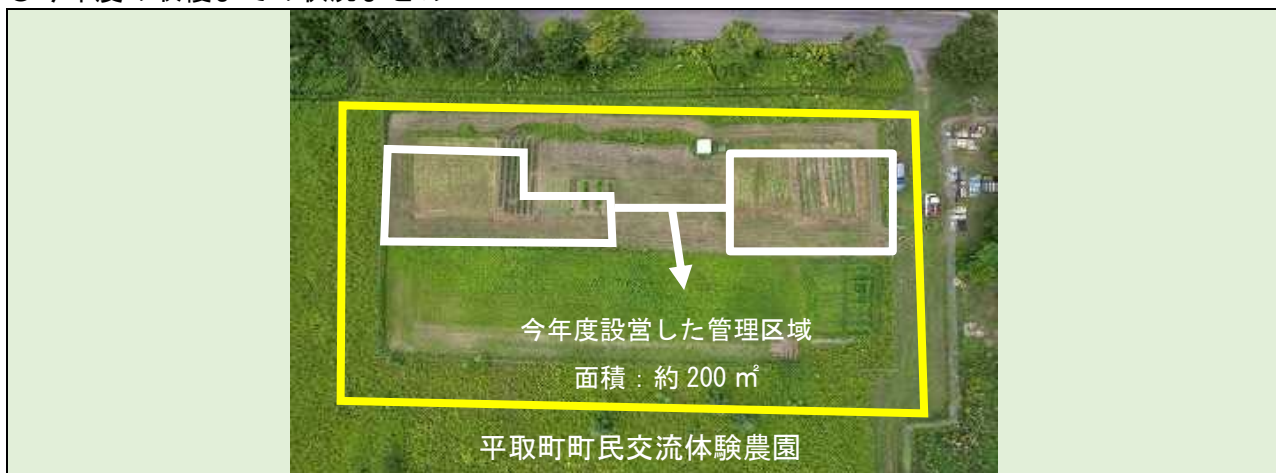
		
動物の侵入を防ぐためのネットを張る。		
		 黒い獣害防止ネット
ユケ（鹿）* 侵入防止のためのロープと、ネットの外側にも二重に防獣ネットを張る。		























②栽培した作物一覧

今年度は二風谷地区の町民交流体験農園敷地内で雑穀畑を設営し栽培しました。この雑穀畑では食文化試行で使用する食材の確保を目的とした栽培を行っています。

●今年度の収穫までの状況まとめ



栽培種	播種量	播種日	収穫日	収穫量
エモ	20 kg	5/27	8/27~	約 50kg
マメ(豆) * トラマル	84 株		9/15	5 kg
シブツケ (イナキビ)	200 g	5/9	9/17	12 kg
(-) タカキビ	780 粒	5/20	9/18	5 kg
カンボチャ (カボチャ)	3 株	5/28	9月下旬	27 個

				
5月9日 シブツケをポットで播種しました。	5月13日 堆肥を撒いた後、機械で起耕しました。		5月20日 発芽を確認しました。	5月28日 カンボチャ(カボチャ)の苗を定植しました。
				
6月19日 ある程度大きくなるまで毎日水やりを行いました。	5月27日 マメの播種を行いました。	6月13日 マメの畝間の草取り作業と支柱立てを行いました。		6月16日 シブツケ、タカキビの苗を定植しました。
				
6月19日 ある程度大きくなるまで毎日水やりを行いました。	6月24日 例年苗を害するイセボ(ウサギ) * エゾユキウサギが確認されました。	6月25日 獣害防止のため防鳥ネットを側面まで張りました。		7月17日 畝間の草取り整備を行いました。
				
7月17日 草取り後の様子です。	9月17日 シブツケの収穫と乾燥の様子です。		9月18日 タカキビの収穫後の様子です。	10月17日 タカキビの乾燥後、脱穀作業を行いました。

D. データベース更新

ア) 収穫物を利用した食文化の再現と保存

試行する際は、これまでの聴き取り調査や文献の情報での昔の方々の知恵や工夫されていた伝統的な食文化を再現するとともに、今日風な料理へのアレンジも多様に試行しました。

実施日	試行内容（メニュー）	実施事業
5/24		シト（団子） 標本園散策体験試食会 （一般参加者対象）
6/1		<ul style="list-style-type: none"> ・コサヨ（粉粥） ・ラタシケブ[®]（混ぜ煮） ・ブクサキナ（ギョウジャニンニク）キムチ漬け ・ミツバ卵焼き ・山菜天婦羅 ・オハウ（汁物） ・マメ（豆）・ヤム（粟）メシ（ご飯） 平取町・二風谷国際先住民族フォーラム 2025
7/11 7/24 8/6		シト 高齢者コミュニティー 伝統料理試食会
7/26		シト 平取ダムフェスタ 食文化試行
10/9		<ul style="list-style-type: none"> ・シペ（サケ）ちゃんちゃん焼き ・ブタカム（豚肉）のヌタ ・ブクサ（ギョウジャニンニク）キムチ漬け ・ペネエモ（潰れたいも） ・シト（団子） ・ラタシケブ[®]（混ぜ煮） ・シブシケブ[®]・ヤムメシ（イナキビ・粟ご飯） ・ブタポネオハウ（豚軟骨汁） サケ・マス特別採捕食文化試行
12/13		<ul style="list-style-type: none"> ・シブシケブ[®]メシ ・ブタポネオハウ ・ブクサ卵とじ ・ミツバ浅漬け どさん子馬乗馬体験

■ 概 括

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業												
業務分野	4 - 地域文化の保全対策に関する調査												
業務項目と内容・方法 ※沙流川流域地域文化調査業務の記載事項を引用	<p>(1) 文献調査 沙流川流域のアイヌ語地名に係る既往文献について調査を行う。</p> <p>(2) データベース更新 沙流川流域のアイヌ語地名等の調査結果について、既存データベースの更新を行う。</p>												
年間作業工程（工程）概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	(1)【文献調査】	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
		文献調査、現地調査											
	(2)【データベース更新】	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
		既往データベースの更新											
	【調査結果とりまとめ】												
(1) 報告書作成	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
(2) 平取ダム地域文化保全対策結果とりまとめ	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
【検討会】													○
主担当	島野 健二												

■ 調査業務の成果

A. 沙流川流域のアイヌ語地名に関する調査

ア) 文献調査

B. アイヌ語地名データベースの更新

C. アイヌ語地名データベースWeb公開に向けた協議

ア) 主な協議・実施内容

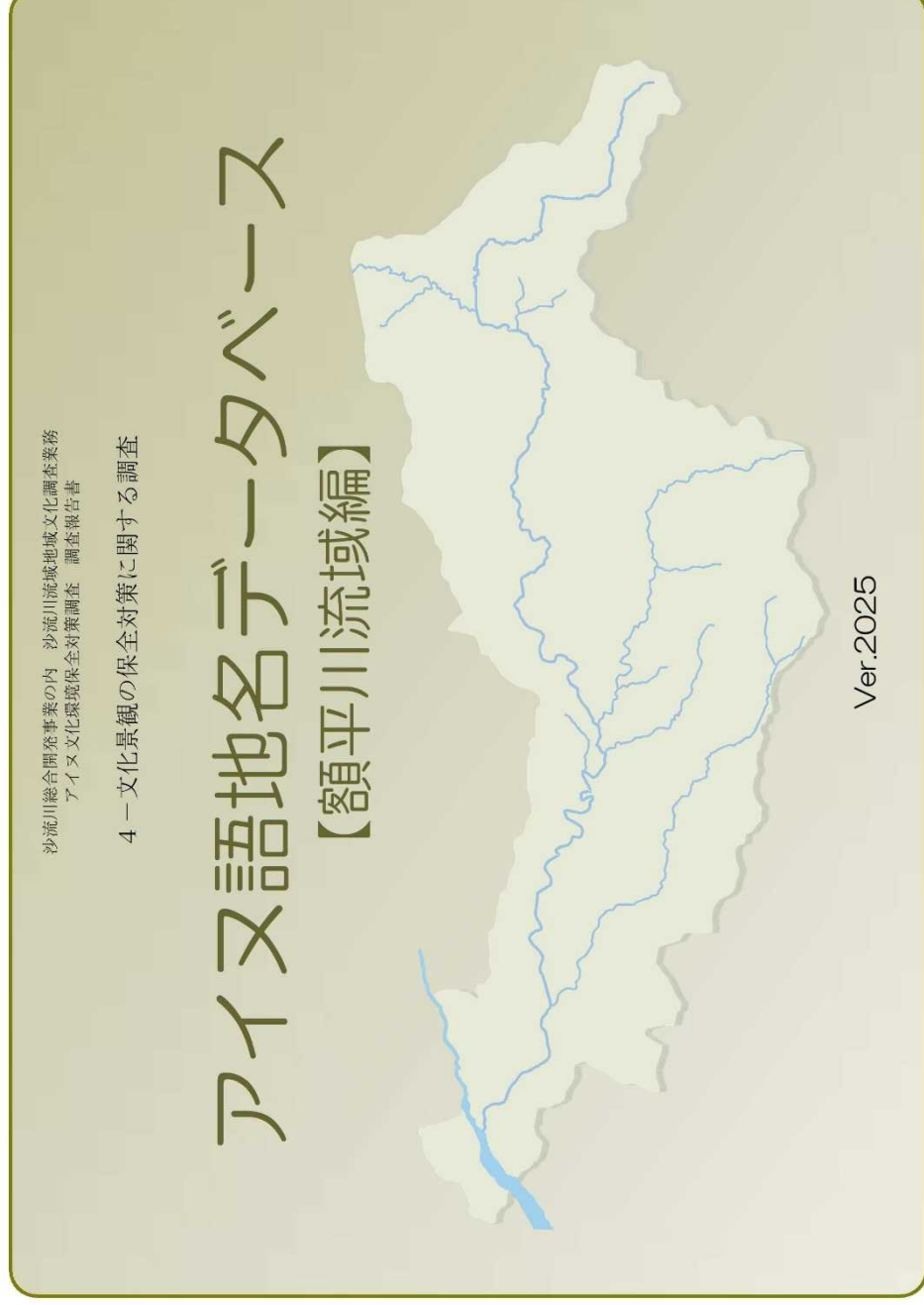
■ 関連資料一覧

■ 参考文献一覧

B. アイヌ語地名データベースの更新

今年度確認した文献情報をデータベースに反映し更新を行いました。以下は、更新した部分を抜粋したものです。

データベース
表紙（2025版）



◎『額平川流域』の更新箇所 No.1

文献情報更新箇所の抜粋

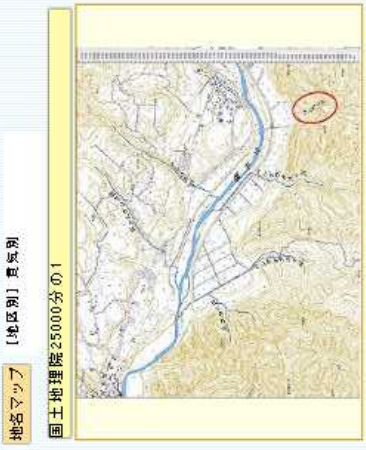
①アイヌ語地名データベース額平川流域編Ver.2025

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(M) レコード(R) スクリプト(S) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

レイアウト: レイアウト1 | 調査年度: H18年度 | 地域: 川 | 地名: 川筋 | 漢字

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47

整理番号 014	調査年度 H18年度	地域: 川	地名: 川筋	漢字
アイヌ語 地名 ウンチヤシ	ローマ字 表記 un-oss1	アイヌ 語表記		
現状 担当 者所属	この川は、ウンチヤシ山中のやや左寄り流れ、この川の間に水神がおり、清風自然亭 1989年 舞臺史におい、ゲームに就む砂流川の屋敷とりにて記されている。この神はアムンチヤシ(ニオ イの子ヤシコウ)の神様と仲が良かったが、アムンチヤシに火災が起きたとき水を借りてあげたといふ。 だがこの話は 錯誤感があり、水を借りたのはアムンチヤシの屋敷とりにて記されている。火を借りた後にウ ンチヤシのカムイは怒神が来たためアムンチヤシの屋敷とりにて記されている。火を借りた後にウ			
出典 由来	●ウンチヤシ沢: NRR北海道本部編 1975年 『北海道地名誌』 P. 557 ▲ヤシのある 由来の沢が。			
出典 由来	●ウムンチヤシ: 松浦武四郎 1895年 『戊午東西蝦夷山』地理談話誌 下』 P. 17 ▲右のたけ川、名籍は昔を年々此題にて列挙して等しい。			
出典 由来	●つるつる滑る水の女神の祈: 埴野茂 1988年 『カムイユカ5と奇話』 P. 482 ▲火 の女神と水の神の祈が わたしの夫と、一緒に暮らしたわたしは、クマを捕ったり シカを捕ったり してくれぬから わたしはいた、わたしの夫は狩りに行き、晴によって は、一晩も 帰ってこない、そうしているうち、二月も帰らん、三月も帰らん、そ のような、ある日のこと、どこのコタン(村)かに、焼音の音、位の高い神、来る音が、響 き渡った、そのうちに、わたしの家、屋根の上へ、葉り物を止め、神の言葉が、聞こえて			
出典 由来	●ウムンチヤシ: 沙流川歴史館 2001年 『沙流川歴史館年報 第2号』 P. 9 ▲昔 をここで知ったこと			



更新箇所

C. アイヌ語地名データベースWeb公開に向けた協議

これまで調査し、更新してきたデータベースをWeb公開することを想定した保存形式の仕様変更に向けた協議を行いました。

ア) 主な協議・実施内容

日時	活動内容
2025年4月11日	鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係
2025年9月4日	鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係
2025年11月11日	鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係
2025年12月23日	鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係
2026年1月13日	鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係
2026年2月17日	鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係

	
4月11日 鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係	9月4日 鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係
	
11月11日 鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係	12月23日 鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係
	
1月13日 鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係	2月17日 鶴川沙流川河川事務所との打合せ データベース公開関係

◎データベース、ブックレットの活用例

アイヌ語地名データベースを元に豆本を制作し、アイヌ文化情報センター、ノカピライウオ・ビジターセンターや二風谷コトANDAYなどのイベント開催時に配布しました。また、沙流川、額平川流域のアイヌ語地名ブックレットについても、アイヌ文化情報センターに配布しました。

町内と北海道内にある、動物に関わる
アイヌ語地名を記載。



二風谷アイヌ情報センター内
豆本配布状況

町内と北海道内にある、植物に関わる
アイヌ語地名を記載。



ノカピライウオ・ビジターセンター内
豆本配布状況

町内と北海道内にある、様子をあらわす
アイヌ語地名を記載。



二風谷コトANDAY
豆本配布

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業												
業務分野	5 - 地域文化の普及方策に関する調査												
業務項目	<p>(1) 保全対策普及</p> <p>平取ダム展示施設において、展示物等の維持管理、一般来訪者の受付、パンフレット等の配布、車イス等の貸し出し、案内及び展示に係る予約団体等への解説や対応等を行う。</p> <p>また、施設の使用状況、体験学習の実施状況を整理し、地域文化の普及に向けた来訪者のニーズに関する調査を行う。</p> <p>※業務従事者の配置にあたっては、業務に支障をきたすことがないよう、担当職員と協議のうえ決定すること。</p> <p>※展示施設の開館及び普及推進期間については、以下のとおりとする。なお、行事等により変更する場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館期間 4月1日～3月31日 10時00分～16時00分 ・普及推進期間 4月3日～6月30日（閉庁日を除く） 7月1日～10月31日（閉庁日を含む） <p>※業務を行ううえで必要な備品等（机、椅子、ロッカー等の什器備品類、内線電話、休憩室、電気、水道等の使用）については貸与する。なお、事務機器（事務作業に使用するパソコン、プリンター）、通信機器及び消耗品等については、受託者の負担と責任において確保すること。また、施設内に保管している防災資機材について、整理整頓し管理することとし、異常を発見した場合は速やかに担当職員に連絡すること。</p> <p>(2) 普及方策整理</p> <p>沙流川流域の地域文化に係る情報発信施設や文化的景観等を眺望できる場所への誘導に向け、各施設や場所への来訪者数の調査・整理を行う。</p> <p>(3) 体験学習実施</p> <p>地域文化保全対策の普及啓発のため、体験学習等を行う。</p>												
※沙流川流域地域文化調査業務の記載事項を引用													
年間作業工程	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	(1) 保全対策普及	●→											→
	(2) 普及方策整理		●→										→
	(3) 体験学習実施			●→									→
	【調査結果とりまとめ】												
	(1) 報告書作成	●→											→
	(2) 平取ダム地域文化保全対策結果とりまとめ	●→											→
	【検討会】												
担当	菊地 みづき												

■調査業務の成果

A. 保全対策普及

ア) ノカピライウォロ・ビジターセンターでの来客対応

- ①受付状況の整理
- ②アンケート集計
- ③団体への対応

B. 普及方策整理

ア) 町内施設の来訪者一覧

イ) モニター等を用いた情報発信

ウ) 豆本の配布

C. 体験学習実施

ア) アイヌ文化の普及方策に関する調査

- ①貫気別小学校での試行
- ②今年度試行した体験学習プログラムの内容
- ③今年度の振り返りと来年度に向けた意向調査
- ④ウレクレク（平取アイヌ協会青年部主催事業）での試行
- ⑤シシリムカアイヌ文化祭での試行
- ⑥施設を利用した企画展

〈a〉パネル展 アイヌ文化環境保全対策事業 ～魚類の保全対策調査編～

イ) アイヌ文化環境保全対策事業の広報・普及

ウ) 調査成果を活用した各分野での取り組みのまとめ

■関連資料一覧

■参考文献

■実現してほしいアイデアやご意見・要望など

「野鳥営巣中に景観を楽しめず少し残念ですね」「料理を一緒にしてみたい」「なにもない」「先住民族のことを子供達にも知って欲しいので社会科見学や修学旅行のコースに入れると良いと思う。」「皆のドライブ先になるように、シトを必ず置くとかのみものがコーヒーなど買えたらいい。」「学芸員さん？によるかいせつ付き館内見学、自由にみて回るのもいいけど、歴史など、くわしく説明ききながら、回りたい。」「アイヌ食の再現のパワポが非常に良いと思いました。コンテンツとして良い。YouTube で各食事の作り方がみられるようになると良いなー。」

③団体への対応

団体対応に係る「見学予約対応報告書」については関連資料②に所収しています。

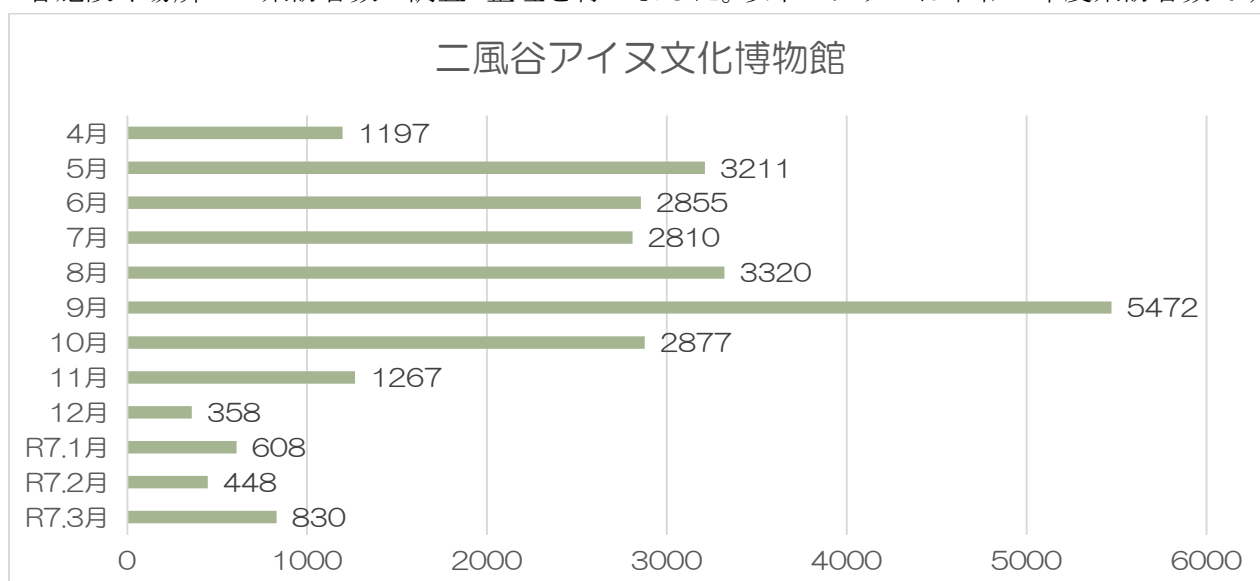
《見学予約対応一覧》

日付	団体名	人数
4月21日(月)	個人、地域おこし協力隊	3名
7月8日(火)	室蘭開発建設部 地域文化勉強会	64名
7月11日(金)	(株)平取町アイヌ文化振興公社	30名
7月24日(木)	(株)平取町アイヌ文化振興公社	23名
7月26日(土)	平取ダム管理支所(平取ダムフェスタ参加者)	AM:15名 PM:12名
8月4日(月)	二風谷アイヌ文化博物館	4名
8月6日(水)	(株)平取町アイヌ文化振興公社	17名
8月11日(月)	平取町役場観光商工課	9名

B. 普及方策整理

ア) 町内施設の来訪者一覧

沙流川流域の地域文化に係る情報発信施設や文化的景観等を眺望できる場所への誘導に向け、各施設や場所への来訪者数の調査・整理を行いました。以下のグラフは令和6年度来訪者数です。



C. 体験学習実施

ア) アイヌ文化の普及方策に関する調査

地域文化保全対策の普及啓発のため、体験学習等を行いました。

①貫気別小学校での試行

今年度試行した体験学習プログラムの概要




◇令和7年度 体験内容◇

回数	月	内容	時間 (45分)
①	5月	導入+アイヌ語地名	1
②	6月	カックイ（差し杭）とレックッタラ（ヨブスマソウ）でつり体験	2
③	7月	アットウシ（オヒョウの木の皮の織物）プレスレット、木彫り体験	2
④	9月	二風谷コタン見学	3
⑤	11月	舞踊体験	2
⑥	12月	舞踊体験	2
⑦	1月	マタ（冬）の子ども遊び体験	2
合計		学習7回 14時間	

②今年度試行した体験学習プログラムの内容

1. 導入+アイヌ語地名

日時：5月22日（木）2時間目（9：25～10：10） 実施場所：体育館

時間	内容・時間配分	
10:30～	導入 ・スタッフ紹介、今年度のアイヌ文化学習授業内容についての紹介	
10:40～	アイヌ語地名 ・パワーポイントでアイヌ語地名の紹介	
10:50～	アイヌ語地名パズルで遊ぼう	
11:00	授業終了	
実施状況写真		
		
準備したもの		
対策室2名、教育委員会1名 ・ノートパソコン…1台 ・スライドデータ ・記録機材…カメラ1台 ・感想シート…14枚		
小学校		
・プロジェクター…1台 ・マイク…2本		

ウ) 調査成果を活用した各分野での取り組みのまとめ

今年度実施した各分野における試行の内容および成果を整理し、今後の調査成果を活用した取り組みの検討ならびにプログラム作成の参考資料として取りまとめました。

1 精神文化保全対策に関する調査

日付・試行実施名	4月28日(月)・山菜採取時の儀礼体験
対象	地域おこし協力隊他(3名)
実施場所	芽生山林
主な体験等	所作の体験
活用した成果等	調査員による指導

日付・試行実施名	5月28日(水)・川洲畑播種時の儀礼体験
対象	鶴川沙流川河川事務所(11名)
実施場所	川洲畑 本町試験畑
主な体験等	所作の体験
活用した成果等	協力者・調査員による指導、カムイノミ(神への祈り)所作マニュアル

日付・試行実施名	6月28日(土)・ポロシリ(幌尻岳)の山開きに伴う儀礼
対象	平取町山岳会、環境省新ひだか自然保護管事務所、平取ダム管理支所、幌尻山荘管理人代表(40名)
実施場所	ノカピライウオロ・ビジターセンター屋外 ヌササン(祭壇)
主な体験等	所作の体験・見学
活用した成果等	協力者・調査員による指導、カムイノミ祈詞集

日付・試行実施名	9月8日(月)・川洲畑収穫時の儀礼体験
対象	鶴川沙流川河川事務所(7名)
実施場所	川洲畑 本町試験畑
主な体験等	所作の体験
活用した成果等	協力者・調査員による指導、カムイノミ所作マニュアル

日付・試行実施名	10月1日(火)・ポロシリの山じまいに伴う儀礼
対象	平取町山岳会、環境省新ひだか自然保護官事務所、平取ダム管理支所(8名)
実施場所	ノカピライウオロ・ビジターセンター屋外 ヌササン(祭壇)
主な体験等	所作の体験・見学
活用した成果等	協力者・調査員による指導、カムイノミ祈詞集

日付・試行実施名	10月9日(木) シペ(サケ)の特別採捕時の儀礼
対象	鶴川沙流川河川事務所(11名)
実施場所	沙流川支流アベツ川
主な体験等	所作の体験・見学
活用した成果等	調査員による指導

2-2 魚類の保全対策に関する調査

日付・試行実施名	4月28日(月) シペ稚魚放流体験
対象	二風谷小学校 児童
実施場所	沙流川
主な体験等	シペ稚魚の放流体験
活用した成果等	協力者・調査員による指導

■ 概 括

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業													
業務分野	6-栽培実験の継続に関する調査													
<p>業務項目と 内容・方法</p> <p>※沙流川流域地域 文化調査業務の 記載事項を引用</p>	<p>(1) 有用植物育苗育成試験 採取した種子による播種栽培試験を実施し、育苗畑において育成管理を行う。 また育成した有用植物について、適宜、植物保全地区への移植を行う。</p> <p>(2) モニタリング調査 植物保全地区へ移植された植物について、モニタリング調査を行う。</p> <p>(3) データベース更新 モニタリング調査結果について、既存データベースの更新を行う。</p>													
年間作業工程 概要	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	◆調査計画検討	●————→												
	(1)【有用植物育苗育成試験】	●————→												
		播種栽培試験、育成管理												
		●————→												
		植物保全地区への移植												
	(2)【モニタリング調査】	●————→												
	(3)【データベース更新】	●————→												
	【調査結果とりまとめ】													
	(1) 報告書作成	●————→												
(2) 平取ダム地域文化	●————→													
保全対策結果とりまとめ	●————→													
【検討会】	○													
主担当	山崎 寛晃													

■調査業務の成果

A. 有用植物育苗育成試験

ア) 令和7年度調査計画の検討

- ①時期の想定及び保全対策としての取り組みの流れ
- ②有用植物保全対策に関する具体的手順フロー図
- ③有用植物保全モデル地区の設定
- ④保全対策の実施イメージ

イ) 播種栽培試験の育成概念

ウ) 栽培試験地と周辺環境の点検・整備

エ) 令和7年度播種栽培試験状況

オ) 試験種選定から播種までの作業工程

カ) シキナ（ガマ）の播種試験

キ) 二風谷育苗畑1での整備作業及び育成種リスト

- ①二風谷育苗畑1での作業
- ②二風谷育苗畑1播種栽培試験種リスト
- ③二風谷育苗畑1栽培試験種リスト（移植）
- ④二風谷育苗畑1での育苗植物リスト

ク) S-04 保全区での整備・移植作業

- ①S-04 保全区全体図
- ②S-04 保全区の整備作業
- ③S-04 保全区への移植作業
- ④令和7年度 S-04 保全区移植種リスト

ケ) ノカピライウオロ標本園での整備作業

- ①ノカピライウオロ標本園全体図
- ②ノカピライウオロ標本園の整備作業
- ③ノカピライウオロ標本園への移植作業
- ④令和7年度 ノカピライウオロ標本園移植種リスト
- ⑤ノカピライウオロ標本園内育苗畑での整備・移植作業
- ⑥ノカピライウオロ標本園育苗畑 樹種リスト
- ⑦ノカピライウオロ標本園内育苗畑配置図

コ) S-04 保全区、ノカピライウオロ標本園の木本への追肥作業

サ) ノカピライウオロ標本園ガイド

B. モニタリング調査

ア) 個別管理記録表の記入手順

- ①「生態学的混播・混植法」モニタリングシート
- ②その他移植箇所モニタリングシート

イ) 各保全区のモニタリング調査

- ①S-04 保全区のモニタリング調査
- ②ノカピライウオロ標本園のモニタリング調査

C. データベース更新

ア) データベース概要

イ) データベース更新箇所

D. 令和8年度以降の課題

■関連資料一覧

■参考文献一覧

④二風谷育苗畑1での育苗植物リスト

現在トレーに播種を行い、発芽待ちのものとポットに植え替えを行い、育成管理を行っている植物の一覧です。表の左側が播種を行ったトレーの数、右側がポット苗の数となっています。

育苗畑1 育苗中の植物一覧			
植物名 (アイヌ語名 (和名) ※種名)	トレー数	植物名 (アイヌ語名 (和名) ※種名)	ポット数
アッニ (オヒョウ)	2.0	アッニ	1188
イワトペニ (ヤマモミジ)	0.5	アユシニ (タラノキ)	3
ウトウカンニ (ミズキ)	0.3	アユシニ (ハリギリ)	185
カस्पニ (ツリバナ)	0.5	イワキキンニ (ナナカマド)	168
カस्पニ (マユミ)	0.3	イワトペニ (アカシデ)	26
カस्पニ (マユミ) ※コマユミ	0.3	イワトペニ (ヤマモミジ)	24
クッチ (コクワ)	0.5	イワニ (アオダモ)	272
シケレペニ (キハダ)	1	エゾロカンニ (ミツバウツギ)	106
チカプセタンニ (アズキナシ)	0.5	オフケニ (キタコブシ)	24
ブクサ (ギョウジャニンニク)	0.3	カस्पニ※コマユミ	63
ラプシニ (ニシキギ)	0.3	カस्पニ (マユミ)	28
ランコ (カツラ)	0.3	カリンパニ (エゾヤマザクラ)	461
トゥレプニ (ヤマグワ)	1	シウリ (シウリザクラ)	84
ニタットペニ (クロビイタヤ)	0.5	シケレペニ	13
ハッ (ヤマブドウ)	0.5	セタニ (エゾノコリンゴ)	178
(-) クサギ	0.25	チクペニ (イヌエンジュ)	18
(-) ナツハゼ	0.5	トペニ (イタヤカエデ)	25
計	9.55	トペニ※ミツデカエデ	168
		ハッ	19
		プシニ (ホオノキ)	212
		ホロカアユシニ (ケヤマウコギ)	28
		ヤルペニ (カンボク)	85
		ラスパ (ノリウツギ)	4
		リテンニ (ツツジ) ※アカツツジ	4
		(-) ムラサキシキブ	52
		計	3438

⑤ノカピライウォロ標本園内育苗畑での整備・移植作業

二風谷育苗畑1からポット苗の移植を行いました。ここで1～2m程度まで育成後、各保全区へと移植を行っていきます。移植した苗木の詳細は下記の樹種リストを参照してください。
また、移植した苗木の育成促進のために定期的な草刈りを行いました。

ノカピライウォロ標本園育苗畑整備・移植		
		
二風谷育苗畑1から苗木の移植を行いました。		
		
苗木の育成促進のために草刈りを行いました。		

⑥ノカピライウォロ標本園育苗畑 樹種リスト

園内の育苗畑に移植し育苗中の苗木の一覧です。数は今年度5月時点のものとなっています。

ノカピライウォロ標本園育苗畑 樹種リスト	
植物名 (アイヌ語名 (和名) ※種名)	本数
アツニ (オヒョウ)	56
アユシニ (タラノキ)	4
アユシニ (ハリギリ)	28
イワキキンニ (ナナカマド)	28
イワトペニ (アカシデ)	11
イワニ (アオダモ)	28
カस्पニ (マユミ) ※コマユミ	34
カリンパニ (エゾヤマザクラ)	28
シケレペニ (キハダ)	5
チクペニ (エンジュ) ※イヌエンジュ	43
ニタットペニ (クロビイタヤ)	14
プシニ (ホオノキ)	25
ラスパ (ノリウツギ)	14
ランコ (カツラ)	6
合計	335

③ S-04 保全区への移植作業

今年度は11月にA～Cエリアを対象に移植を行いました。全エリア共通してノカピライウオロ標本園内育苗畑にて1～2m程度まで生育した木本を移植し、移植数は4種 58本になります。移植実施日や移植した木本の詳細は下の表を参照してください。

S-04 保全区への移植作業		
		
標本園内育苗畑での移植木掘り出し作業	移植作業の様子	
		
根が浮いてしまわないように添え木に縛り付けます。	移植作業完了	

④ 令和7年度 S-04 保全区移植種リスト

今年度、ノカピライウオロ標本園内育苗畑からS-04 保全区へ移植した木本の一覧です。

移植実施日	植物名 (アイヌ語名 (和名) ※種名)	移植箇所	移植数
11/6 (木)	アツニ (オヒョウ)	エリアA、C	27本
11/12 (水)	カリンパニ (エゾヤマザクラ)	エリアA	19本
11/20 (木)	イワキキンニ (ナナカマド)	エリアA、B	8本
	トペニ (イタヤカエデ) ※ミツデカエデ	エリアA	4本

③ノカピライウォロ標本園への移植作業

今年度は11月に育苗畑などから木本4種17本をオカ（イ）（暮らす）ゾーン、アエプ（食べ物）ゾーン、クスリ（薬）ゾーンへ移植しました。移植は基本的にゾーンテーマに沿って行うこととしていますが、現在の園内の木本の配置などを考慮して、園内の景観を意識した移植も行っています。移植種の詳細については下の表を参照してください。

ノカピライウォロ標本園への移植作業		
		
標本園内育苗畑での 苗木掘り出し作業	移植作業の様子	
		
根が浮かないように 縛り付けます	食害防止にネットを巻きます	移植完了後の様子

④令和7年度 ノカピライウォロ標本園移植種リスト

今年度ノカピライウォロ標本園へ移植した木本の一覧です。

実施日	植物名（アイヌ語名（和名））	採取場所	移植箇所	移植数
11/20	カリンパニ（エゾヤマザクラ）	標本園内育苗畑	アエプゾーン	2本
			クスリゾーン	5本
11/21	シウリ（シウリザクラ）	標本園内育苗畑	オカ（イ）ゾーン	7本
	（-）クサギ	育苗畑1	アエプゾーン	1本
	（-）ヤマブキ	額平川流域	オカ（イ）ゾーン	2本

■ 概 括

事業名	2025（令和7）年度 アイヌ文化環境保全対策事業												
業務分野	7 - 沙流川河川整備箇所における現地調査												
業務項目	<p>(1) 事前調査 沙流川の河川整備箇所において、有用植物の植生状況について現地調査を行い、有用植物がある場合は、生育適地へ移植を行う。</p> <p>(2) モニタリング調査 過年度に実施した沙流川河道掘削後における現況調査及び有用植物のモニタリング調査を行う。また、モニタリング調査結果は2-1に取り入れること。</p>												
※沙流川流域地域文化調査業務の記載事項を引用	業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	◆調査計画検討	●→											
	(1) 事前調査												
	有用植物植生調査と移植	●→										→	
	アイヌ語地名現地調査	●→										→	
	文献調査・アイヌ語地名データベース更新	●→										→	
	(2) モニタリング調査												
	調査に向けた事前準備	●											
	過年度調査箇所におけるモニタリング調査	●		●		●		●		●			
	四季の定点撮影			●		●		●		●			
	【調査結果とりまとめ】												
	(1) 報告書作成								●→				→
	(2) 平取ダム地域文化保全対策結果とりまとめ	●→											→
【検討会】													○
担当	長野 環												

■調査業務の成果

A. 事前調査

- ア) スプキ（ヨシ）移植試験の現況調査及びモニタリング
- イ) アイヌ語地名現地調査及びデータベースの更新（文献調査含む）

B. モニタリング調査

ア) 過年度調査箇所位置

- ①平成 25 年度から令和 3 年度までの調査箇所図

イ) 調査に向けた事前準備

ウ) 令和 7 年度における現地調査

①パイカラ（春）の現況調査

- 〈a〉「紫雲古津地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈b〉「紫雲古津地区 2」の現況調査及びモニタリング
- 〈c〉「荷菜地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈d〉「荷菜地区 2」の現況調査及びモニタリング
- 〈e〉「本町地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈f〉「本町地区 2」の現況調査及びモニタリング

②サク（夏）の現況調査

- 〈a〉「紫雲古津地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈b〉「紫雲古津地区 2」の現況調査及びモニタリング
- 〈c〉「荷菜地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈d〉「荷菜地区 2」の現況調査及びモニタリング
- 〈e〉「本町地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈f〉「本町地区 2」の現況調査及びモニタリング

③チュク（秋）の現況調査

- 〈a〉「紫雲古津地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈b〉「紫雲古津地区 2」の現況調査及びモニタリング
- 〈c〉「荷菜地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈d〉「荷菜地区 2」の現況調査及びモニタリング
- 〈e〉「本町地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈f〉「本町地区 2」の現況調査及びモニタリング

④マタ（冬）の現況調査

- 〈a〉「紫雲古津地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈b〉「紫雲古津地区 2」の現況調査及びモニタリング
- 〈c〉「荷菜地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈d〉「荷菜地区 2」の現況調査及びモニタリング
- 〈e〉「本町地区 1」の現況調査及びモニタリング
- 〈f〉「本町地区 2」の現況調査及びモニタリング

エ) パイカラ（春）からマタ（冬）にかけての過年度調査箇所現地状況の記録

①定点撮影ポイントの設定

②定点撮影ポイントの記録状況

- オ) 河川景観としての保全（※平成 29 度、令和 3 年度報告書より抜粋→令和 7 年度加筆）
- カ) 今後の課題

■関連資料一覧


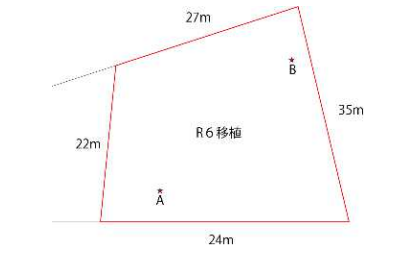










■参考文献一覧

A. 事前調査

ア) スヅキ (ヨシ) 移植試験の現況調査及びモニタリング

令和7年度、河道掘削工事に伴い影響を受けるスヅキ (ヨシ) 等について、移植地を設け移植を実施しました。移植後の現況調査及びモニタリング箇所は「本町地区及びスヅキ試験地」の2カ所です。モニタリングは、全長・葉の長さ (モニタリング記録表参照) について計測・記録しました。

◎ 「本町地区及びスヅキ試験地」移植試験箇所位置図

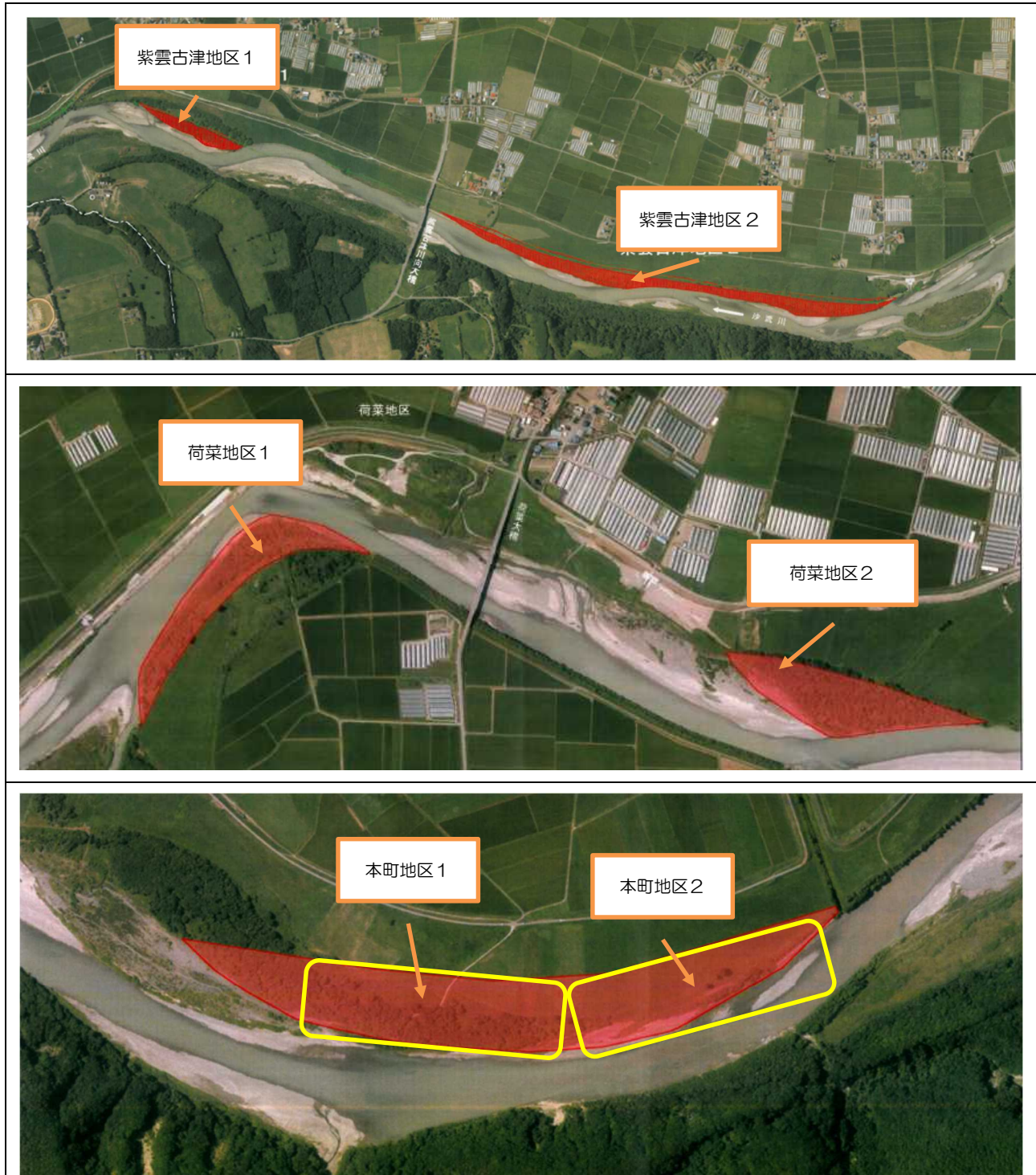
移植箇所位置		
		
本町地区 (A・B)		スヅキ試験地 (C・D)
		
移植範囲の計測 (A・B)		モニタリング位置決め (A・B、C・D)
		
育苗トレー設置 (杭で2カ所固定)		
		
トレー内のスヅキ・シキ (オニガヤ) ※オギの数を確認、計測 (※全長および葉の長さ)		
<p>掘削工事による影響ため、スヅキを移植した。本町地区移植先は、掘り下げられた (1m 程度) 場所に 30 cm~40 cmの厚さで移植された。</p> <p>スヅキ試験地の移植先は、掘削箇所法面で、一度、スヅキごと表土を剥ぎ、仮置きして掘削終了後法面に移植 (貼り付け) した。</p> <p>モニタリング箇所には、育苗トレーの底を取り除き2か所 (A・B) に設置。スヅキ試験地においても2か所 (C・D) 設置。計測するスヅキ (大・小)、シキ (大・小) にピンクテープでマーキング。モニタリング時に本数 (増減) を確認する。</p>		

ウ) 令和7年度における現地調査

①パイカラ(春)の現況調査

今年度は、平成25(2013)年度調査箇所「紫雲古津地区1・2」及び平成28(2016)年調査箇所「苧菜地区1・2」、新たに平成29(2017)年度調査箇所「本町地区1・2」について、河道掘削工事後における現況調査及びモニタリング調査、ドローンによる記録を行いました。下記図は、調査箇所「紫雲古津地区1・2」は令和4(2022)年度より継続、調査箇所「苧菜地区1・2」は、令和5(2023)年度より継続、「本町地区1」は、令和6(2024)年度より継続、「本町地区2」は令和7年度追加した箇所を示しています。

◎調査箇所(「紫雲古津地区1・2」・「苧菜地区1・2」・「本町地区1・2」)位置図

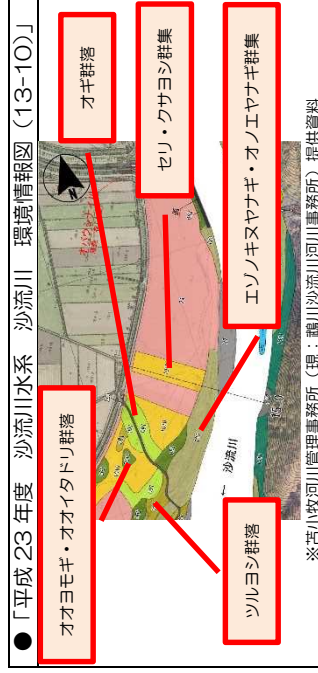


※上の図は、苫小牧河川管理事務所(現:鶴川沙流川河川事務所)提供資料です。

〈f〉「本町地区2」の現況調査及びモニタリング

今年度新たに「本町地区2」を追加。河道掘削工事における「パイカウ（春）」の現況調査及びモニタリング調査を実施しました。調査位置については「◎調査箇所「本町地区2」位置図（P7）」を参照して下さい（アイヌ語表記については、参考文献のままを記載しています）。

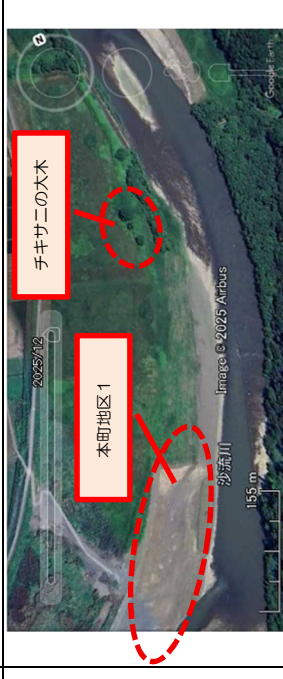
◎「本町地区2」現況調査箇所位置図



●平成23年度 沙流川水系 沙流川 環境情報図（13-10）」



●2025年度の様子（掘削工事後）



環境情報図（13-10）によると、掘削前の主な植生は、エゾノキヤナギーオノエヤナギ群集、ツルヨシ群集、オギ群集、オオモギーオオイトドリ群集、セリークサヨシ群集等が記載。ピンク色の部分は、人口裸地となっている（※植物名は提供資料のまま表記）。

この場所は、2017年度調査箇所です。本町地区2は、バンケピラウトゥル（バンケ平取川）とバンケピラウトゥルの間の対岸（右岸）に位置していて、アイヌ語地名調査箇所となっている。

令和5年度掘削箇所の様子として、昨年度掘削箇所は、草木類が繁茂している。掘削前の植生調査でもスギ（ヨシ）は確認されており、スギキ移植適地として安全していきたい。掘削予定箇所の残り（本町地区2）部分には、チキサニ（ハルニシ）の太木が2024年度までは3本自生していた。モニタリング箇所全体的に、スズ（ヤナギ類）の雑樹が多くみられる。掘削箇所が大きく削れている。

◎「本町地区2」植生調査の様子

	チキサニの太木		ドローン画像 （下流から上流方向）		ドローン画像 （上流から下流方向）		チキサニの太木とアイヌ語地名箇所ベンケピラウトゥル方向		ドローンによる画像 （掘削箇所法面）
--	---------	--	----------------------	--	----------------------	--	-----------------------------	--	-----------------------

◎モニタリングで確認された動植物一覧

草本	アイヌ語名（和名）	草本	アイヌ語名（和名）	動物	アイヌ語名（和名）
アハ（ツチマメ）	スギ※ツルヨシ	ケネ（ハンノキ類）	木本 アイヌ語名（和名）	コク（鹿）※エゾシカ痕跡（足跡、鹿角）	動物 アイヌ語名（和名）
アンチャマリ（アザミ）	（一）アカザ	スズ※オオハヤナギ他	スズ※オオハヤナギ他	ユケチカッポ（ホオジロ）	その他 アイヌ語名（和名）
イコクツマリ（オオイトドリ）	（一）オナモミ	カッコク（カッコウ）	カッコク（カッコウ）	スマ（石）	スマ（石）
ココニ（フキ）※アキタブキ	（一）スギナ	（一）ウグイス	（一）ウグイス	ネツ（流木）	ネツ（流木）
スなバ（ノダイオオ）					

※引用元：Google社「Google Earth」

カ) 今後の課題

令和7年度における現地調査箇所は、平成25(2013)年度～平成29(2017)年度に調査を実施した場所であり、掘削工事が一部を除いて終了した場所でもあります。そのうち「紫雲古津地区1・荷菜地区2」では、地域の古老からの聞き取り情報をもとに、2009年度から「川洲畑」と言われるアイヌの伝統的な農法の試験を行っていた場所があります。「川洲畑」を作る条件として、雪解け水が運んだ肥沃な土が必須ですが、掘削工事を実施した場所は、条件は違いますが掘削することで表面に出てきた土壌での試験も必要ではないかと思えます。また、「伝統的農法の再現」の他、アイヌ文化として有用である「水生植物(スプキ(ヨシ)※ツルヨシ・シキナ(ガマ))等の栽培試験」についても試験・実施が必要と思えます。さらに「本町地区1・2」のチキサニ(ハルニレ)の大木(※2025年度最後の一本伐採)伐採後の対策や今後の工事予定「令和3(2021)年度調査実施箇所」の対応(2025年度では未着)。二風谷ダム下流の中洲水際(水生植物の栽培等)活用を含め、二風谷ダム湖等の整備を進めるに当たり、北海道開発局より策定された、「沙流川水系河川整備計画[平成19年変更]→「令和7年12月変更」」に記載されているように、アイヌ文化保存・伝承・振興のため取り組みへの配慮が必要とされています。

沙流川水系河川整備計画[令和7年12月変更]※抜粋

(6) 地域と一体となった河川管理

地域住民と協力して河川管理を行うため、地域のみなさまへ様々な河川に関する情報を発信する。このため、河川協力団体等の地域の取組と連携した河川整備や河川環境保全モニターの活用等により、住民参加型の河川管理の構築に努める。

このような取組を進めるにあたり、地域住民、地域団体、関係機関及び河川管理者が、各々の役割のかつぎめ細やかな河川管理を実施する。

一方、少子高齢化が進み、旧来型の地域コミュニティが衰退している状況を踏まえ、これら多様な主体の参加による連携・協働の取組を通して、河川管理にとどまらず防災、教育、社会福祉等様々な面で地域が共に助け合う地域コミュニティの再構築に寄与するよう努める。

沙流川では、河川清掃や住民参加型川づくりをはじめ河川と地域との連携活動が活発に行われている。今後、地域住民や関係機関、河川協力団体等との協働をより一層育み、川づくりに携わる人材の育成や、住民等の川での社会貢献活動、上下流の住民及び自治体間の交流活動等に対する支援を行う。

(7) アイヌ文化保存、伝承、振興のための取組

豊かな自然環境を背景に成立してきたアイヌ文化を保存、伝承、振興する。また、二風谷ダム建設に際して、アイヌ文化への影響に関する調査、研究が十分でなかったとされた背景を踏まえ、地域や関係機関等で構成される協議会等を通じて、平取ダム建設時に実施してきた平成18年(2006年)3月にとりまとめられた「アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書」を踏まえ取組を引き続き行うなど、沙流川流域の河川整備を実施していく上で次の事項について配慮する。

1) 遺跡の調査と遺物等の保存展示

工事の実施に際し、アイヌ文化の遺跡を確認した場合には、北海道教育委員会、平取町教育委員会、平取町教育委員会及び関係団体と協議の上、事業計画の変更も含めて、十分な措置を講じる。また、記録保存の措置がとられた場合には、出土した遺物や記録を、アイヌ文化の歴史を学ぶ貴重な財産として展示・公開する。

2) アイヌ文化に配慮した河川空間の保全と管理

アイヌ文化の伝承、振興に欠かせない素材や資源(ガマ、ヨシ、サケ等)を供給する上で必要な河川環境の保全・創出を図る。また、伝統儀式等が継続的に実施出来るよう河川空間の管理に努める。このほか、川や沢などのアイヌ語地名等を調査し、その伝承のための資料とし、自治体・関係団体等と連携するとともに、必要な調査・検討を行う。

3) アイヌ文化伝承や発展のための構想の支援

河川掘削をはじめとする河川整備にあたっては、地域の意見を踏まえ、アイヌ文化の継承に配慮して行う。さらに、ダム湖周辺等の河川空間を有効活用するなど、地域のみなさまや自治体によるアイヌ文化の伝承や発展のための構想を支援していくための諸策を展開する。

■調査業務の成果

A. 地域文化保全対策ワーキンググループの運営と資料作成

- ア) ワーキンググループの経緯・方針・構成
- イ) ワーキンググループの各回の議題と資料

B. ミッションの運営と協議

ア) ミッション植物保全

- ①主な協議・作業内容
- ②今後の課題

イ) ミッションPIPAUSI

- ①主な協議・作業内容
- ②今後の課題

ウ) ミッションとりまとめ

- ①主な協議・作業内容
- ②今後の課題

C. 保全対策を具現化するための調整・整理作業

ア) アイヌ文化保全対策室の活動一覧（協議・調整関連）

- ①主な協議・実施内容
- ②平取ダム周辺施設の利活用方策
- ③北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの連携
- ④主な協議・実施内容

イ) 平取町アイヌ総合政策推進基本計画プロジェクトチーム会議での協議・調整

ウ) アイヌ文化保全対策関連施設の活用について

D. 総括

ア) 令和7年度の総括と今後の課題

イ) 【補足】アイヌ文化環境保全対策事業の特徴について

A. 地域文化保全対策ワーキンググループの運営と資料作成

イ) ワーキンググループの各回の議題と資料

日時・会場	議 題	資料提示
2025 年 6 月 11 日 (水) <三者会議> 二風谷生活館 集会室	令和 7 年度地域文化保全対策スケジュール (案) に ついて 令和 7 年度工事予定箇所について アイヌ文化環境保全対策事業の年間基本計画につ いて 平取ダム地域文化保全対策検討会のとりまとめ (案) について	資料提示 【河】 鶴川沙流川河川事務所 【対】 町アイヌ文化保全対策室 議事次第【河】 地域文化スケジュール【河】 会議説明資料【河】 アイヌ文化環境保全対策事業 年間基本計画【対】 地域文化保全対策検討会とり まとめ【河】
2025 年 12 月 8 日 (月) <三者会議> 二風谷生活館 会議室	平取ダム地域文化保全対策検討会のとりまとめ (案) について 動画作成の方向性について	議事次第【河】 会議説明資料【河】 とりまとめ動画作成にあたり 【河】
2026 年 3 月 12 日 (木) <三者会議> 二風谷生活館	令和 7 年度の工事实施状況及び令和 8 年度の工事 予定について 平取ダム地域文化保全対策検討会説明資料につい て 検討会「とりまとめ」について 令和 7 年度末具現化プラン進捗状況について 検討会から協議会へ移行に当たり その他	議事次第【河】 会議説明資料【河】

	
<p>6 月 11 日 (木) 三者会議</p>	<p>12 月 8 日 (月) 三者会議</p>

B. ミッションの運営と協議

鶴川沙流川河川事務所との担当者間での打合せをミッションと称し、植物保全、PIPAUSI、総括報告書とりまとめの3つについて協議してきました。

- ◇ ミッション植物保全 → 主に、35 地区にエリア分けしている植物保全区についての整備とノカピライウォ標本園の管理運営について
- ◇ ミッションPIPAUSI → 主に、かわまち支援事業の一部で平取町二風谷にあるピパウシ沢、特に下流域の整備と活用について
- ◇ ミッションとりまとめ → 主に、2006年3月に取りまとめられた「沙流川地域文化評価業務 アイヌ文化環境保全対策調査 総括報告書」について、平取ダム完成・運用開始に伴う現段階でとりまとめた報告書の制作について

ア) ミッション植物保全

主に、35 地区にエリア分けしている植物保全区について、どのように保全対策を進めていくかを検討するミッションです。

①主な協議・作業内容

全体で35地区ある植物保全区のうち、試験湛水の影響が軽微または受けない区域、さらには湛水を有効活用できるような区域については先行5地区として選定されましたが、具体的な整備について、専門家の指導や鶴川沙流川河川事務所と方向性や整備方針など協議してきました。

令和4年度からは、ノカピライウォ標本園として整備してきたS-05植物保全区の一般開放も実施しております。

こちらは毎年すずらん観賞会期間に合わせて散策体験会を開催し、一般の方を対象とした園内の解説を行っており、実施にあたっては鶴川沙流川河川事務所のほか町観光部署とも連携を図りながら平取ダム周辺施設の活用を図っています。

また、これまで地元小学生や道内外、国外の大学生、講師などにもアイヌ文化に関する植物の保全について解説を行ってきており、ノカピライウォ標本園を活用したアイヌ文化の理解の促進に取り組んでいます。

なお、アイヌ文化に関する植物の保全については沙流川流域全体を視野に入れた対策が必要となることから、これまで継続してきた本町河川敷でのスプキ（ヨシ）などの試験地、二風谷ダム直下の中洲エリアにおける植物保全対策の検討、平取ダム運用開始に伴う植物保全区管理台帳の更新を行った。特に利用が困難になった箇所（N-02、N-04、S-15、S-16、S-17）の代替地について、新たな育成箇所の整備にむけた検討。また、有用植物の流域内確保に向けた栽培箇所の選定など平取ダム周辺だけではなく町内の沙流川流域全体を対象とした検討を行いました。

	
<p>6月11日（水）三者会議での協議</p>	<p>8月27日（水）S-04 シキナ移植</p>

②今後の課題

- ◆35 保全区での具体的な対策案の検討とその工程の明確化と具現化に向けた継続的な作業。
- ◆S-05 植物保全区（ノカピライウォロ標本園）を開放するにあたり、これまでの検証と課題（野生動物などの対応）の検討。
- ◆保全区全体の位置づけの検討やフットパスルートを含めた活用方策の実施及び検証。
- ◆アイヌ文化振興公社や町観光部署など関係機関との連携の強化。
- ◆沙流川流域全体を視野に入れた保全対策の検討。

イ) ミッション PIPAUSI

主に、平取町二風谷にあるピパウシ沢、特に二風谷ダム湖周辺について、かわまち支援事業と連携し整備の協議検討やピパ（カワシンジュガイ）の生育調査などについて検討するミッションです。

①主な協議・作業内容

これまでピパウシ沢周辺においては、令和元年度には（外）カラマツの伐採が完了し、令和2年度に伐採後の整備方法について、専門家の指導によりアイヌの伝統的な利用植物を残し育てながら、散策し学べる標本園としての整備を想定した協議を三者会議やかわまち意見交換会の中で行ってきました。

かわまちづくり計画では、これまで平取ダム下流域を計画区域としていましたが、令和4年9月に計画変更（第3期計画）が行われ、ピパウシ沢下流域付近を含めた二風谷ダム上流部も計画区域に追加されました。



※かわまち意見交換会（2026.2.20）資料 P11 より抜粋



1月16日（金）ピパ（カワシンジュガイ）
専門家との協議（道総研）



2月20日（金）かわまち意見交換会

②今後の課題

- ◆現在の検討・作業体制の持続と強化拡充。
- ◆ピパウシ沢周辺を標本園としての整理及び散策道の整備の検討。
- ◆ピパウシ沢の名前の由来となるピパの生息調査において、沙流川流域全域において現時点で生息は確認できていないが、ひきつづき生態調査・生体を用いた調査など併行して行いながら、学識者・関係団体への調査及びピパウシ沢におけるピパの回帰を視野に入れた今後の対策についての検討。
- ◆関連する施策や事業との連動を意識した整備について検討。
 - ・かわまちづくり計画におけるピパウシ沢を含めた周辺整備

ウ) ミッションとりまとめ

主に、2006年3月にとりまとめられた「沙流川地域文化評価業務 アイヌ文化環境保全対策調査 総括報告書」について、平取ダムの運用開始を契機とした、これまでの取組み実績とこれからの必要な取組みについて検証するミッションです。

①主な協議・作業内容

2003（平成15）年5月に平取町から委嘱を受けたアイヌ文化環境保全対策調査委員会では約3年間、委員会や各種ワーキングチームにおいて検討を行い、2006年3月に「沙流川地域文化評価業務 アイヌ文化環境保全対策調査 総括報告書」が取りまとめられた。この総括報告書を基に平取アイヌ協会、鶴川沙流川河川事務所及び平取町にて具体的な整備内容などの検討を行い、地域文化保全対策ワーキングや三者会議でのご意見を踏まえ、これまで様々な調査や検証などを行ってきました。その結果、令和3年11月には平取ダムの完成及び試験湛水、また、令和4年7月にはノカピライウォロ・ビジターセンターが開館するなど着実に整備が整いつつあります。

これらの状況を踏まえ、総括報告書を製作した2006年4月から本年度2026年3月までの調査及び進捗状況を取りまとめし報告書として製作しました。

②今後の課題

- ◆今後、継続される調査についての報告書作成にあたって、とりまとめの手順、報告書の構成などは2003年・2026年に製作した総括報告書に沿った内容で「三者」による確認と協働を重視し具現していくこと。

- ◆これまで蓄積された膨大な調査データを一般公開できる形に整え、二風谷ダム展示室やノカピライウォ・ビジターセンターにて閲覧できる状況に整理し、情報の更新など今後のWeb公開などの対応についての協議。
- ◆今後想定される二風谷ダム管理支所やノカピライウォ・ビジターセンターにおける屋内でのデータ提供やその修正があった際の更新など、引き続き展示に関する専門家による指導、協力体制の構築。



4月16日（水） 鶴川沙流川河川事務所の協議



6月4日（水） 鶴川沙流川河川事務所の協議



9月4日（水） 鶴川沙流川河川事務所の協議



11月11日（火） 鶴川沙流川河川事務所の協議



12月23日（火） 鶴川沙流川河川事務所の協議



1月13日（火） 鶴川沙流川河川事務所の協議



3月11日（水） 鶴川沙流川河川事務所の協議



2003年6月 総括報告書

C. 保全対策を具現化するための調整・整理作業

ア) アイヌ文化保全対策室の活動一覧（協議・調整関連）

③北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの連携

昨年度に引き続き北海道大学アイヌ・先住民研究センターと連携し、加藤博文教授と留学生のゼミ生数名を交えた意見交換や二風谷ダム管理支所周辺や二風谷コタンの視察を行い、地域文化調査業務についての理解を深めていただきました。また、今年度については二風谷ダム管理支所周辺の展示内容やノカピライウォロ・ビジターセンター内展示の修正について協議など連携して実施しました。

今後は、これまでの調査報告書等の多言語化や保全対事業の普及啓発など国内外へ広く発信するための検討における連携を想定しています。引き続き協働して取り組むことが非常に有効であると考えます。

④主な協議・実施内容

日時	活動内容
2025年4月11日	北大加藤博文教授との打合せ 二風谷ダム周辺展示関係
2025年7月24日	北大加藤博文教授・ゼミ生との打合せ ビジターセンター年表関係

	
4月11日 二風谷ダム周辺展示協議 (平取町)	7月24日 ビジターセンター展示協議 (平取町)

D. 総括

ア) 令和7年度の総括と今後の課題

今年度は特にこれまで継続してきた調査業務の他に、総括報告書のとりまとめ作業をしつつ、平取町・二風谷国際先住民族フォーラム 2025 や年2回の二風谷コタンDAYへの協力を実施してきました。さらに、二風谷ダム管理支所の屋外展示における今後の方向性について、関係機関と協議を行いました。今後、引き続き二風谷ダム周辺の案内看板や誘導看板などについても協議を続けていきます。

また、平取ダム供用開始後の保全対策業務のあり方についても、鶴川沙流川河川事務所と協議し、併せて関連会議等にて想定される業務案を提示しました。

平取ダムの通常運用を迎え、シキナ（ガマ）やスプキ（ヨシ）などの有用植物の補完に向けた植物保全区の整備やピパ（カワシンジュガイ）やサクラマスの回帰に向けたかわまち支援事業など関係諸施策との連携により、沙流川流域全体の課題解決に向けて、引き続き関係機関が連携しながら協議を深めることが重要となります。